

【3P1B201】ピアノ		音楽総合学科		1年前期		
		2単位	必修	演習	30時間	
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴					
資格・制限等	Pコース必修					
資格等	音療選択(音楽)					
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋 : 音楽教室講師・9年					
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。					
到達目標	知識・理解	基礎的な音楽知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。				
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。				
	技能	基礎テクニックを修得し、演奏技術の向上に努めることができる。				
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	エチュード、バロック、古典派の作品を学びながら演奏の基本を確認します。音楽的知識を修得し、演奏技術と表現を身に付けていきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)	-	5	5	-	10
	受講態度	15	-	-	15	30
	合計(点)	15	35	35	15	100
評価の特記事項	実技試験は古典派の作品の演奏を最終試験(前期定期試験)で行います。中間発表(中間試験)はスケール・アルペジオ、エチュードの演奏です。フィードバックとして中間発表(中間試験)、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。					
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	特になし					
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。					
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(または手持ちのもの)(1,430円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ:インヴェンション・シンフォニア』指定なし					
参考書・教材	個々に合わせて選択します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業説明: 今後の進め方 選曲 各々が準備してきた楽曲を演奏 【課題(準備・復習)】 初回のレッスンで演奏する曲を準備しておく レッスンでのアドバイスを踏まえ復習し、次回のレッスンの準備をする(2~3h)					
2~7	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 ~中間発表(中間試験)曲を中心に~ ・正確な譜読み ・テクニックの修得 ・音楽用語の理解 ・曲想 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)					
8	中間発表(中間試験): 調号1つまでのスケール・アルペジオ、練習曲 ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 ~試験曲を中心に~ 【課題(準備・復習)】 中間発表(中間試験)に向けて弾き込む レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(2~3h)					
9~15	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 ~試験曲を中心に~ ・正確な譜読み ・テクニックの向上 ・音楽用語の理解 ・曲想 ・音色研究 ・豊かな表現力 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)					
時間外での学修	レッスン時に次回までの課題が提示されますので、授業外で毎日怠らずに練習し、毎回のレッスンでレベルアップできるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 30~45時間】					
受講学生へのメッセージ	レッスン内容を楽譜やノート等に書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。					

【3P1S202】ピアノ		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	Pコース必修						
資格等	音療選択(音楽)						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋 : 音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	前期に引き続き、練習曲、バッハの作品に取り組みながら、ロマン派の作品も学びます。前期に学んだ基礎テクニックを更に発展させ、演奏技術、表現力を高めます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	実技試験はロマン派の作品の演奏を最終試験(後期定期試験)で行います。中間発表(中間試験)はスケール・アルペジオ、バッハの演奏です。フィードバックとして中間発表(中間試験)、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	特になし						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,430円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ:インヴェンション・シンフォニア』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1~7	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品 ~ 中間発表(中間試験)曲を中心に~ ・ 譜読みの確認 ・ テクニックの向上 ・ 音楽用語の確認 ・ 曲想 ・ 音色研究 ・ 音楽表現 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)						
8	中間発表(中間試験): 調号2つ・3つのスケール・アルペジオ、バッハ インヴェンション ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品 ~ 試験曲を中心に~ 【課題(準備・復習)】 中間発表(中間試験)に向けて弾き込む レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(2~3h)						
9~15	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品 ~ 試験曲を中心に~ ・ 正確な譜読み ・ テクニックの向上 ・ 音楽用語の理解 ・ 曲想 ・ 音色研究 ・ 豊かな表現力 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)						
時間外での学修	レッスン時に提示される各々の課題を授業外で毎日怠らず練習し、毎回のレッスンが質の高いレッスンとなるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 30~45時間】						
受講生へのメッセージ	レッスンでアドバイスを受けたことを自分の演奏に活かし、演奏力の向上に努めてください。オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。						

【3P1B205】ピアノキャリア実践		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Pコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人指導を行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	・音程、和音、調性、コードネーム、コード進行などの基礎知識を理解することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	・適切な思考力・判断力を養うことができる。 ・豊かな演奏表現をすることができる。					
	技能	・変奏・モチーフ課題などの即興演奏、初見演奏、メロディ&ベース・コード&ベースの伴奏づけなどにおいて、適切な演奏をすることができる。 ・高度な演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	ヤマハ・カワイピアノ演奏グレードの学修や、ピアノ演奏の更なる追求など、個々の希望進路に合わせた内容を学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験/課題		20	20	20	-	60
	受講態度		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	実技試験は最終試験（前期定期試験）で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	特になし						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	<b>授業説明</b> 各種グレードについての説明 今後の進め方を話し合う グレード：音名、音程、調、調号、和音記号、コードネームについて ピアノ演奏：正確な譜読み 【課題(準備・復習)】 これまでに学んだことのある楽典を復習し、音名、音程、調性、和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解する（2h～3h） レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする（各2～3h）						
2～15	<b>ヤマハピアノ演奏グレード</b> ・即興演奏（変奏課題・モチーフ課題） ・初見演奏 課題の確認 【課題(準備・復習)】 学修した内容を復習し、即興演奏について理解し、初見演奏ができるようにする（各2～3h）						
2～15	<b>カワイピアノ演奏グレード：伴奏づけ</b> ・固有和音 ・借用和音：ドッペルドミナント ・その他の借用和音：副属七の和音 ・まとめ、受験対策 課題の確認 【課題(準備・復習)】 学修した内容を復習し、伴奏づけについて理解する（各2～3h）						
2～15	<b>ピアノ演奏</b> ・テクニックの向上 ・曲想 ・バランスづくり ・音色研究 ・豊かな表現 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする（各2～3h）						
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】						
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【3P1S206】ピアノキャリア実践		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Pコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人指導を行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	・和音、調性、コードネーム、コード進行などの基礎知識を理解することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	・適切な思考力・判断力を養うことができる。 ・豊かな演奏表現をすることができる。					
	技能	・変奏・モチーフ課題などの即興演奏、初見演奏、メロディ&ベース・コード&ベースの伴奏づけなどにおいて、適切な演奏をすることができる。 ・高度な演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	ヤマハ・カワイピアノ演奏グレードの学修や、ピアノ演奏の更なる追求など、個々の希望進路に合わせた内容を学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験/課題		20	20	20	-	60
	受講態度		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	実技試験は最終試験（後期定期試験）で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	特になし						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1～15	ヤマハピアノ演奏グレード ・即興演奏（変奏課題・モチーフ課題） ・初見演奏 ・まとめ、受験対策 課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、即興演奏について理解し、初見演奏ができるようにする（各2～3h）						
1～15	カワイピアノ演奏グレード：伴奏づけ ・転回形によるベース（1）の第1転回形 ・転回形によるベース（2）の第2転回形 ・転回形によるベース（3）の第1転回形、7の和音の第1・2・3転回形 ・固有和音 ・借用和音（1）ドッペルドミナント、の第1転回形 ・借用和音（2）マイナー・マイナーの第2転回形 ・借用和音（3）上の7 ・借用和音（4）上の7、ドッペルドミナントの第1転回形 ・借用和音（5）上の7、ドッペルドミナントの第1転回形 ・借用和音（6）上の7 ・復習 ・ティミニッシュ ・転調 ・まとめ、受験対策 課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、伴奏づけについて理解する（各2～3h）						
1～15	ピアノ演奏 ・テクニックの向上 ・曲想 ・バランスづくり ・音色研究 ・豊かな表現 など 課題の確認 【課題(復習)】 レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする（各2～3h）						
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】						
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【3P1B209】ピアノ応用実践		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	Pコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人指導を行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	・音程、音階、和音、コードネーム、コード進行、調性、音楽用語、楽語などの基礎知識を理解することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	・適切な思考力・判断力を養うことができる。 ・豊かな演奏表現をすることができる。					
	技能	・メロディー視唱、ひきうたい、伴奏づけ、移調奏などにおいて、音楽を楽譜からの確にとらえ、演奏することができる。 ・音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。 ・より高度な演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	ヤマハ指導グレード、カワイピアノ指導グレードの学修や、ピアノ演奏の更なる追求など、個々の希望に合わせた内容を学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験 / 実技試験 / 課題		20	20	20	-	60
	受講態度		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	筆記試験 / 実技試験は最終試験（前期定期試験）で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験 / 実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	特になし						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	<p>授業説明 今後の進め方を話し合う グレード：音名、音程、調、調号、和音記号、コードネームについて ピアノ演奏：正確な譜読み [課題(準備・復習)] これまでに学んだことのある楽典を復習し、音名、音程、調性、和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解する（2～3h） レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする（2～3h）</p>						
2～15	<p>ヤマハ指導グレード ・メロディー視唱 ・ひきうたい ・伴奏づけ ・移調奏 ・楽典 ・コード進行法 ・聴音 課題の確認 [課題(準備・復習)] 学修した内容を復習し、各実技・筆記科目について理解する（各2～3h）</p>						
2～15	<p>カワイピアノ指導グレード ・調 ・音階 ・和音 ・コードネーム（3和音・4和音） ・音楽用語 ・楽語 ・聴音 課題の確認 [課題(準備・復習)] 学修した内容を復習し、各筆記科目について理解する（各2～3h）</p>						
2～15	<p>ピアノ演奏 ・テクニックの向上 ・曲想 ・バランスづくり ・音色研究 ・豊かな表現 など 課題の確認 [課題(準備・復習)] レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする（各2～3h）</p>						

時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【3P1S210】ピアノ応用実践		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	Pコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人指導を行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的知識をはじめ、音楽用語、楽曲の知識、コードネーム、調判定・移調、楽曲分析などの知識を理解することができる。</li> <li>幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。</li> </ul>					
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な思考力・判断力を養うことができる。</li> <li>豊かな演奏表現をすることができる。</li> </ul>					
	技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>メロディー視唱、ひきうたい、伴奏づけ、移調奏などにおいて、音楽を楽譜からの確にとらえ、演奏することができる。</li> <li>音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。</li> <li>より高度な演奏技術の向上に努めることができる。</li> </ul>					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	ヤマハ指導グレード、カワイピアノ指導グレードの学修や、ピアノ演奏の更なる追求など、個々の希望に合わせた内容を学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験 / 実技試験 / 課題		20	20	20	-	60
	受講態度		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	筆記試験 / 実技試験は最終試験（後期定期試験）で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験 / 実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	特になし						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1～15	ヤマハ指導グレード：メロディー視唱・ひきうたい・伴奏づけ・移調奏・楽典・コード進行法・聴音 カワイピアノ指導グレード：曲種・楽曲の知識・コードネーム・調判定・移調・楽曲分析・聴音 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する（各2～3h）						
1～15	ピアノ演奏課題 ・テクニックの向上 ・音楽用語の理解 ・曲想 ・音色研究 ・豊かな表現力 など 課題の確認 [課題(準備・復習)] 毎回の指導でのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする（各2～3h）						
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】						
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【3P1B213】ピアノ演習		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
資格等							
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得に向け、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。					
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術を向上することができる。					
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	個々の目標に合わせた教材・楽曲に取り組みながら、ピアノ演奏に必要とされる強く独立性のある指作り、自らの体で強弱や音色を創り出し表現する演奏技術を修得します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	実技試験は任意の曲の演奏を最終試験（前期定期試験）で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	特になし						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,430円) ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし 『ソナチネアルバム またはソナタアルバム』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明：今後の進め方 曲決め 【課題(準備)】 楽譜を持っている学生は楽譜を持参する(1~2h)						
2~15	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネ・ソナタ など ・ 正確な譜読み ・ テクニックの修得 ・ 音楽用語の理解 ・ 曲想 ・ 音色づくり ・ 表現 など ヤマハピアノ演奏グレード対策 ・ 変奏課題 ・ モティーフ課題 ・ 課題曲、自由曲 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各1~2h)						
時間外での学修	授業外で毎日ピアノを練習する習慣を身に付け、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスン内容を自ら楽譜やノート等にも書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。オフィスアワーはB206で月曜日3・4限目です。						



【3P1S214】ピアノ演習		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
資格等							
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術修得に向け、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。					
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術を向上することができる。					
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	前期に修得した基礎を土台とし、ピアノの演奏技術を高め、表現力を身に付けていきます。個々の目標に合わせて学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	実技試験は任意の曲の演奏を最終試験で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	特になし						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,430円) ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし 『ソナチネアルバム またはソナタアルバム』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1～15	<p>ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネ・ソナタ など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正確な譜読み</li> <li>・ テクニックの修得</li> <li>・ 音楽用語の理解</li> <li>・ 曲想</li> <li>・ 音色づくり</li> <li>・ 音楽表現 など</li> </ul> <p>ヤマハピアノ演奏グレード対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変奏課題</li> <li>・ モティーフ課題</li> <li>・ 課題曲、自由曲 など</li> </ul> <p>課題の確認 [課題(準備・復習)] 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各1～2h)</p>						
時間外での学修	授業外での毎日の練習を怠らず、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】						
受講学生へのメッセージ	自らの指や体で音色を創り出して、自然な演奏ができるよう、積極的に演奏法を修得しましょう。 オフィスアワーはB206で火曜日3・4限目です。						

【302B213】電子オルガン演習		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	相原 里美					
資格・制限等	特になし					
資格等						
実務家教員	音楽教室講師・29年					
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。 質問・要望等授業時に受け付けます。					
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し、電子オルガンの操作、奏法を理解できる。				
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図を読み取ることができる。表現豊かな演奏ができる。				
	技能	データをいかした演奏力の向上。				
	関心・意欲・態度	関心を持ち自ら意欲的に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	電子オルガンの基本操作、演奏法を学びます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	30	30	-	60
	発表	-	5	5	-	10
	受講態度	10	-	-	20	30
	合計(点)	10	35	35	20	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で評価します。フィードバックとして発表と定期試験実施後に講評を行います。 受講態度は学修への取組状況で評価します。					
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	特になし					
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。					
テキスト	個々に合わせて選択します。					
参考書・教材	個々に合わせて選択します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業説明(今後の授業の進め方等) [課題(準備)]電子オルガン演奏の視聴をしてみる(1h)					
2	電子オルガンの操作、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、電子オルガンに慣れる(1h)					
3	電子オルガンの機能、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、電子オルガンの機能を使ってみる(1h)					
4	電子オルガンの奏法(1)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、ピアノ譜を電子オルガンで弾いてみる(1h)					
5	電子オルガンの奏法(2)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、ピアノと電子オルガンの相違点を理解する(1h)					
6	レジストについて、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、各楽器の音域に気を付けながらレジストを組んでみる(1h)					
7	強弱(Exp.p)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、Exp.pを使用し、強弱をつけられるようにする(1h)					
8	ベース奏法について、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、ベースに慣れる(1h)					
9	3段譜の演奏をしてみる、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、ゆっくりなテンポで弾けるようにする(1h)					
10	試験に向けての取り組み(1)選曲・課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、選曲後、各自譜読みに取り組む(1h)					
11	試験に向けての取り組み(2)譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、正確に譜読みを行う(1h)					
12	試験に向けての取り組み(3)強弱、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、強弱をつけて弾けるようにする(1h)					
13	試験に向けての取り組み(4)奏法の研究、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、タッチに気を付けて弾けるようにする(1h)					
14	試験に向けての取り組み(5)暗譜、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜に取り組む(1h)					
15	試験に向けての取り組み(6)発表、仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]レッスンの復習をし、発表後に得たコメントを復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1h)					
時間外での学修	色々なジャンルの音楽を沢山聴きましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間]					
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して、電子オルガンに向かいましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間前後の休み時間です。					

【302S214】電子オルガン演習		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	相原 里美						
資格・制限等	特になし						
資格等							
実務家教員	音楽教室講師・29年						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。 質問・要望等授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し、電子オルガンの操作、奏法を理解できる。					
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図を読み取ることができる。 表現豊かな演奏ができる。					
	技能	データをいかした演奏力の向上。					
	関心・意欲・態度	関心を持ち自ら意欲的に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、アレンジに挑戦します。前期と同様、演奏法を研究し修得します。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	発表		-	5	5	-	10
	受講態度		10	-	-	20	30
	合計(点)		10	35	35	20	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。 フィードバックとして発表と定期試験実施後に講評を行います。 受講態度は学修への取組状況で評価します。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	特になし						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の宿題を発表する、選曲 [課題(準備)]選曲後、各自譜読みに取り組む(1h)						
2	前期の復習、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、次の曲に取り組む(1h)						
3	レパートリーを増やす(1)譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、見落としのないよう正確な譜読みを行う(1h)						
4	レパートリーを増やす(2)オルガン奏法、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲に合った弾き方ができるようにする(1h)						
5	電子オルガンの操作など、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、電子オルガンの機能を使ってみる(1h)						
6	レジストについて、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、各楽器の音域、組み合わせを考えながらレジストを組む(1h)						
7	データの分析、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、入力技術を理解する(1h)						
8	アレンジに向けて(説明・選曲)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、アレンジ方法を理解する(1h)						
9	アレンジに挑戦：取り組み(1)課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、アレンジを進める(1h)						
10	アレンジに挑戦：取り組み(2)課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、さらにアレンジを進める(1h)						
11	試験に向けての取り組み(1)課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、選曲後に各自譜読みに取り組む(1h)						
12	試験に向けての取り組み(2)譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、見落としの無いように正確な譜読みを行う(1h)						
13	試験に向けての取り組み(3)全体の流れ、バランスの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、全体の流れを考えながら弾き込む(1h)						
14	試験に向けての取り組み(4)暗譜、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜に取り組む(1h)						
15	試験に向けての取り組み(5)発表、仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]レッスンの復習をし、発表後に得たコメントを復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】						
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して、電子オルガンに向いましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間前後の休み時間です。						

【3S8B218】和声法		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	P・Or・MTコース必修						
資格等							
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。					
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。					
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。					
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	課題以外にも、自主的に勉強する姿勢を奨励し、質問を受け付け、指導します。						
課題に対するフィードバック	課題を理解し、消化しているか、毎回、個人指導していきます。						
テキスト	『和声 理論と実習』島岡 謙 他 音楽之友社(3,024円) ISBN:978-4276102057						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	和声学の予備知識 [課題]教科書を購入して、読んでみましょう。(2h)						
2	基本位置3和音の配置 [課題]課題1.2を解いてみましょう。(2h)						
3	基本位置3和音の配置 [課題]課題3.4を解いてみましょう。(2h)						
4	基本位置3和音の配置 [課題]課題5( )を解いてみましょう。(2h)						
5	基本位置3和音の配置 [課題]課題6( )を解いてみましょう。(2h)						
6	和音設定の原理 [課題]課題7(T,D,S)を解いてみましょう。(2h)						
7	和音設定の原理 [課題]課題8(複合カデンツ)を解いてみましょう。(2h)						
8	和音設定の原理 [課題]課題9(終止形)を解いてみましょう。(2h)						
9	各種の調(長調) [課題]課題10を解いてみましょう。(2h)						
10	各種の調(短調) [課題]課題11を解いてみましょう。(2h)						
11	各種の調(総合) [課題]課題12を解いてみましょう。(2h)						
12	補充課題 [課題]3和音基本位置(1~3)を解いてみましょう。(2h)						
13	補充課題 [課題]3和音基本位置(4~6)を解いてみましょう。(2h)						
14	補充課題 [課題]3和音基本位置(7~10)を解いてみましょう。(2h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(2h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3S8S219】和声法		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
資格等							
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。					
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。					
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。					
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	課題以外にも、自主的に勉強する姿勢を奨励し、質問を受け付け、指導します。						
課題に対するフィードバック	課題を理解し、消化しているか、毎回、個人指導していきます。						
テキスト	『和声 理論と実習』音楽之友社(3,024円) ISBN:978-4276102057 「和声学」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	3和音の第1転回位置 [課題]課題13,14,15を解いてみましょう。(2h)						
2	3和音の第1転回位置 [課題]課題16,17,18を解いてみましょう。(2h)						
3	3和音の第1転回位置 [課題]課題19(1~4)を解いてみましょう。(2h)						
4	3和音の第1転回位置 [課題]課題19(5~8)を解いてみましょう。(2h)						
5	3和音の第1転回位置 [課題]課題19(9~12)を解いてみましょう。(2h)						
6	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題]課題(1~5)を解いてみましょう。(2h)						
7	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題]課題(6~10)を解いてみましょう。(2h)						
8	3和音の第2転回位置 [課題]課題20,21,22,23を解いてみましょう。(2h)						
9	3和音の第2転回位置 [課題]課題24(1~6)を解いてみましょう。(2h)						
10	3和音の第2転回位置 [課題]課題24(7~12)を解いてみましょう。(2h)						
11	補充課題の実習(3和音の第2転回位置) [課題]課題(1~5)を解いてみましょう。(2h)						
12	補充課題の実習(3和音の第2転回位置) [課題]課題(6~10)を解いてみましょう。(2h)						
13	補充課題の実習(3和音総合) [課題]課題(1~5)を解いてみましょう。(2h)						
14	補充課題の実習(3和音総合) [課題]課題(6~10)を解いてみましょう。(2h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(2h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3W5B201】吹奏楽実践演習		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・野々垣 行恵						
資格・制限等	Wコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	鈴木：吹奏楽指導者（含 高等学校教員）37年						
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。最後に、筆記試験と実技試験を実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、授業での発信・発言に応えます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ&ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景等を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。					
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での基本的な表現力を身につける。					
	技能	楽譜通り正確に演奏できる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を、積極的に学生同士で円滑に進めることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ&ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の集中練習を実施する予定です。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	筆記試験・受講態度		10	10	-	20	40
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は、受講姿勢や出席状況を含めて総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
アクティブラーニングの活用	セクション演習、パート演習などのグループワーク、グループディスカッション						
課題に対するフィードバック	毎回の授業後、個々の課題を整理し、解決します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。						
テキスト	その都度配布						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布、全体で譜読み、合奏。パート内集団活動。パート別演習の打ち合わせ、配布した音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲をパートで譜読み。[課題（準備・予習）]シラバスの熟読、音楽鑑賞用楽曲の譜読み、各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理。（2h～4h）						
2	音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。[課題（復習・予習）]音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
3	音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。[課題（復習・予習）]音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
4	音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。[課題（復習・予習）]音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
5	音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。日時を変更して実施。[課題（復習・予習）]音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
6	音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ合奏。パート別、セクション別演習。[課題（復習・予習）]音楽鑑賞用楽曲のまとめ（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
7	音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ合奏。パート別、セクション別演習。[課題（復習・予習）]音楽鑑賞用楽曲のまとめ（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
8	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。[課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
9	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
10	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
11	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
12	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
13	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
14	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
15	前期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験。 [課題(復習)] 試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。(2h~4h)
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前によく練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を積極的に行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~60時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。合奏メンバーとしてのマナーを身につけましょう。オフィスパワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5B202】アンサンブル		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）37年						
授業方法	アンサンブルをするための基本的な表現方法や技術を講義によって学びます。そのうえで、同属楽器を中心にアンサンブルを編成し、楽曲を演奏します。それぞれの編成において、実技レッスンを行います。最終試験として、互いに発表しあい、意見を交換します。また、学外コンサート用楽曲を題材に、合奏を中心に基本的な技術と表現方法を学びます。						
到達目標	知識・理解	アンサンブルや合奏を成立させるために必要なスケール（長調）、移調、ハーモニー等についての基本的な知識や方法を理解できる。					
	思考・判断・表現	アンサンブルや合奏を通して、各自が持つ積極性、運算力やコミュニケーション力を使い、楽譜を正しく理解した上で、楽譜通り正確に演奏できる。					
	技能	スムーズな移調ができる。全調スケールが演奏できる。初見演奏力を身につける。					
	関心・意欲・態度	誰が聴いても肯定できる演奏表現を身につけるために、真摯な姿勢で努力を継続することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	アンサンブルや合奏（小編成）を通して、演奏技術、表現能力、各奏者間のコミュニケーション能力を磨きます。前期は特に移調や、全調スケール（長調）、ハーモニー等を学修した上で、正しい楽譜の読み方を学びます。また、初見演奏力を初めとする演奏表現に必要な基本的な力を身につけます。学外演奏会を実現する中で様々な役割を経験します。その上で、生演奏でしか味わえない「音による会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験、小テスト		20	20	30	-	70
	課題提出、受講態度		10	10	-	10	30
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は、受講姿勢、課題の取り組み状況などを基に総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
アクティブラーニングの活用	アンサンブルによるグループワーク、ディスカッションなど						
課題に対するフィードバック	小テストや課題は、個々の取り組みや学びを確認し、質問にはコメントを返します。アンサンブル及び、合奏レッスンにおいて、個々の課題を指摘し改善方法や練習方法を示します。						
テキスト	随時プリント配付						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等。 学外演奏のためのレパートリー [課題（準備・復習・予習）]シラバスの熟読、本時学修内容の復習。移調の方法を予習しておく。配布楽譜の予習・復習。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）。（2～4h）						
2	移調の基礎知識と移調楽器について 学外演奏のためのレパートリー [課題（復習）]本時学修内容（各移調楽器の特徴、調性）の復習及び、練習課題に取り組む。配布楽譜の予習・復習。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）。（2～4h）						
3	移調の方法と実践 学外演奏のためのレパートリー [課題（復習・予習）]本時学修内容（管楽器における移調の実践方法）の復習及び、練習課題に取り組む。小テスト（記譜・移調）の予習。配布楽譜の予習・復習。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）。（2～4h）						
4	移調の方法と実践 学外演奏のためのレパートリー [課題（復習・予習）]本時学修内容（管楽器における移調の実践方法）の復習及び、練習課題に取り組む。小テスト（記譜・移調）の予習。配布楽譜の予習・復習。合奏曲の正確な譜読み（アーティキュレーションと強弱）。（2～4h）						
5	小テスト（記譜・移調） 学外演奏のためのレパートリー [課題（準備・復習）]小テスト（記譜・移調）の復習。スケールテストの準備。配布楽譜の予習・復習。合奏曲の正確な譜読み。（アーティキュレーションと強弱）（2～4h）						
6	アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリー、全調スケール（長調） [課題（復習）]アンサンブル曲の正確な譜読み（音とリズム）。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み（フレージング、バランス）（2～4h）						
7	アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリー、全調スケール（長調） [課題（復習）]アンサンブル曲の正確な譜読み（音とリズム）。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み（フレージング、バランス）（2～4h）						



内容	
実施回	授業内容・目標
8	アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリーまとめ、全調スケール(長調) [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(アーティキュレーション、強弱)。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み(まとめ)(2~4h)
9	アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリーまとめ、全調スケール(長調) [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(アーティキュレーション、強弱)。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み(まとめ)(2~4h)
10	小テスト(全調スケール:長調) 学内コンサートのためのレパートリー [課題(復習)]全調スケールテストの復習と定着。合奏曲の正確な譜読み(音とリズム)(2~4h)
11	アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(フレージング、バランス)。合奏曲の正確な譜読み(音とリズム)(2~4h)
12	アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(フレージング、バランス)。合奏曲の正確な譜読み(アーティキュレーション、強弱)(2~4h)
13	アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(個性を活かした表現)。合奏曲の正確な譜読み(アーティキュレーション、強弱)(2~4h)
14	アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(個性を活かした表現)。合奏曲の正確な譜読み(フレージング、バランス)(2~4h)
15	前期まとめ アンサンブル発表会 [課題(復習)]発表会の反省。講評で指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)
時間外での学修	個人の基礎練習を日頃から行い身体にしみ込ませましょう。アンサンブルについては、メンバー同士のコミュニケーションを取り、授業時間外で合わせの練習や研究の実践が必要です。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30~60時間】
受講学生へのメッセージ	履修学生は授業内容に沿った個人練習(予習・復習)と学修内容の復習を必要不可欠とします。授業の性格上、欠席や遅刻が他の受講生の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組みましょう。オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。

【3W5S203】吹奏楽実践演習		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・野々垣 行恵						
資格・制限等	Wコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	鈴木：吹奏楽指導者（含 高等学校教員）37年						
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。最後に、筆記試験と実技試験を実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、授業内での発信・発言に応えます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ&ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景等を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。					
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での基本的な表現力を身につける。					
	技能	楽譜通り正確に演奏できる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を、積極的に学生同士で円滑に進めることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ&ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の集中練習を実施する予定です。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	筆記試験・受講態度		10	10	-	20	40
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は、受講姿勢や出席状況を含めて総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
アクティブラーニングの活用	セクション演習、パート演習などのグループワーク、グループディスカッション						
課題に対するフィードバック	毎回の授業後、個々の課題を整理し、解決します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます						
テキスト	その都度配布						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。パート内集団活動。パート別演習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題（準備・予習）]シラバスの熟読。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
2	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
3	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
4	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
5	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
6	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
7	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
8	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化に留意して）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
9	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化に留意して）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						
10	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化に留意して）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。仕上げ。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に旋律部分、伴奏部分の音楽の違いに注意しながら)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
12	定期演奏会用楽曲合奏。パート別演習、セクション別演習。仕上げ。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に、他のパートとの調和などに注意するように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
13	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。仕上げ。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に時代背景や特徴的な表現記号を反映させながら)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
14	定期演奏会用楽曲合奏。パート別、セクション別演習。仕上げ。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に自分なりの音楽を考えながら)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
15	後期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験。 [課題(復習)] 試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。(2h~4h)
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を積極的に行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~60時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心がけて下さい。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。合奏メンバーとしてのマナーを身につけましょう。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5S204】アンサンブル		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	必修	演習	60時間	
教員	鈴木 孝育					
資格・制限等	Wコース必修					
資格等	音療選択（音楽）					
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）37年					
授業方法	後期は、各ジャンルにおけるメロディの演奏法を学びます。その上で、バンドをバックにソロで演奏する機会を得、ソリストとしての演奏表現力や姿勢を学びます。最終試験として、互いに発表しあい、意見を交換します。また、学外（学内）コンサート用楽曲を中心に、合奏を中心に基本的な技術と表現方法も同時に学びます。					
到達目標	知識・理解	様々なジャンルにおけるメロディの歌い方についての基本的な知識や方法を理解できる。ソリストとしての演奏法や心構えについて、基本的な知識や技術を理解できる。				
	思考・判断・表現	ソロ曲を演奏することで、各自が持つ積極性、音楽性を伴った正確な演奏表現力を身につける。ソリスト立場での姿勢や基本的な表現方法を理解できる。				
	技能	全調スケール（短音階）ができるとともに各ジャンルにおけるメロディの歌い方を正しく理解し、演奏することができる。				
	関心・意欲・態度	誰が聴いても肯定できる演奏表現を身につけるために、真摯な姿勢で努力を継続することができる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	ソロの楽曲にあった奏法を身につけると共にバンドをバックに演奏する経験を積みます。後期は特に全調スケール（短調）や、各ジャンルのメロディの歌い方について学修した上で、正しい楽譜の読み方を学びます。また、合奏を通して演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な基本的奏法を身につけます。学外（学内）コンサートを実現する中で様々な役割を経験する中で、演奏家としての基本的な能力を学びます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験・小テスト	20	20	30	-	70
	課題提出、受講態度	10	10	-	10	30
	合計(点)	30	30	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は、受講姿勢、課題の取り組み状況などを基に総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）					
アクティブ・ラーニングの活用	アンサンブルによるグループ・ワーク、ディスカッションなど					
課題に対するフィードバック	小テストや課題は、個々の取り組みや学びを確認し、質問にはコメントを返します。ソロ&合奏レッスンにおいて、個々の課題を指摘し改善方法や練習方法を示します。					
テキスト	随時プリント配付					
参考書・教材	楽譜等その都度配布					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等 学内コンサートのためのレパートリー [課題（準備・復習・予習）]シラバスの熟読、本時学修内容の復習。メロディの歌い方について予習しておく。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)					
2	メロディの演奏法 セレナーデ（J.ハイドン） 学内コンサートのためのレパートリー [課題（予習・復習）]本時学修内容の復習。メロディの演奏法について復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)					
3	メロディの演奏法 アヴェ・マリア（J.S.バッハ/C.グノー） 歌の翼幻想曲（F.メンデルスゾーン/H.ステックメスト） 学内コンサートのためのレパートリー [課題（準備、予習・復習）]本時学修内容の復習。メロディの演奏法について復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)					
4	メロディの演奏法 ジャズ&ポップスにおけるメロディーの味つけ、独特な奏法。 学内コンサートのためのレパートリー [課題（予習・復習）]本時学修内容の復習。メロディの演奏法について復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)					
5	学内コンサートのためのレパートリー（まとめ） [課題（予習・復習）]本時学修内容の復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)					
6	ソロと吹奏楽演習 正確な音とリズム、アーティキュレーション 全調スケール（短調） [課題（復習）]事前に自分の音程の癖を把握しておく。苦手な調のスケール及び単音でのピッチ合わせの練習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)					
7	ソロと吹奏楽演習 正確な音とリズム、アーティキュレーション 全調スケール（短調） [課題（復習）]苦手な調のスケール及び和音の中での音程を取る練習をする。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)					
8	ソロと吹奏楽演習 正確な音とリズム、アーティキュレーション 小テスト（全調スケール：短調） [課題（復習）]小テストで間違えた調の復習、定着。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)					
9	ソロと吹奏楽演習 正確な音とリズム、アーティキュレーション [課題（準備・復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
10	ソロと吹奏楽演習 フレージング、バランス、個性を活かした表現 [課題(復習)]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)
11	ソロと吹奏楽演習 フレージング、バランス、個性を活かした表現 [課題(復習・予習)]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)
12	ソロと吹奏楽演習 フレージング、バランス、個性を活かした表現 [課題(復習)]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)
13	ソロと吹奏楽演習 フレージング、バランス、個性を活かした表現 [課題(復習)]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)
14	ソロと吹奏楽演習試験 [課題(復習)]演習試験の振り返り。指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)
15	ソロと吹奏楽演習試験 [課題(復習)]演習試験の振り返り。指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)
時間外での学修	個人の基礎練習を日頃から行い身体にしみ込ませましょう。ソロについて、個人の演奏能力向上とともに、バンドメンバーとのコミュニケーションを図る必要があります。気を抜かず取り組んでください。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30~60時間】
受講学生へのメッセージ	履修学生は授業内容に沿った個人練習(予習・復習)と学修内容の復習を必要不可欠とします。授業の性格上、欠席や遅刻が他の受講生の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組みましょう。オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。

【3W5B109】吹奏楽概論		音楽総合学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	小林 聡					
資格・制限等	Wコース必修					
資格等	音療選択（音楽）					
実務家教員	大学非常勤講師・20年、演奏家・36年、作編曲家・23年					
授業方法	現代の吹奏楽の日本、諸外国での現状、吹奏楽の作曲家、主な作品についてグループワークで研究し発表します。様々な吹奏楽合奏教本を紹介し、実際の合奏方法について理解を深めます。学校、社会人などアマチュア吹奏楽団の運営方法についてグループ・ディスカッションで現状と今後の可能性を探求し研究発表をします。					
到達目標	知識・理解	様々な作曲家、作品に対しての幅広い知識を得る。				
	思考・判断・表現	吹奏楽合奏教本に精通し実際の合奏での思考、判断力を高める。				
	技能	楽団の運営方法の概要を学び将来指導的な立場になった時のスキルを上げる。				
	関心・意欲・態度	自ら題材を選び意欲的に学修を進めながら吹奏楽、音楽全般に携わることへの幸福度を高め、社会貢献へのステップとする。				
授業内容	吹奏楽の記譜法、編曲法、時代ごとの様式を学修します。吹奏楽における楽器の役割を理解し、基本的な知識を身につけます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	10	10	-	50
	授業時間内課題	20	10	10	-	40
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	50	20	20	10	100
評価の特記事項	理解の達成度と問題解決への意欲を重視します。					
ICT活用	課題等への質疑応答。					
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク、グループで・ディスカッション					
課題に対するフィードバック	資料の集め方、まとめ方など研究発表の準備をサポートします。					
テキスト						
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション、諸外国の吹奏楽についての概要 [課題（復習）]概要の確認（4h）					
2	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品1 [課題（予習、復習）]アメリカの吹奏楽の作曲家と作品（4h）					
3	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品2 [課題（予習、復習）]アメリカの吹奏楽の作曲家と作品（4h）					
4	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品3 [課題（予習、復習）]アメリカの吹奏楽の作曲家と作品（4h）					
5	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品4 [課題（予習、復習）]イギリス（4h）					
6	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品5 [課題（予習、復習）]オランダ、ベルギーの吹奏楽の作曲家と作品（4h）					
7	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品6 [課題（予習、復習）]フランス、スペイン、スイスの吹奏楽の作曲家と作品（4h）					
8	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品7 [課題（予習、復習）]ドイツ、オーストリア、ハンガリー、チェコの吹奏楽の作曲家と作品（4h）					
9	国内の吹奏楽の作曲家と作品 [課題（予習、復習）]日本の吹奏楽の作曲家と作品（4h）					
10	吹奏楽合奏教本について：1．3Dバンド・ブック [課題（予習、復習）]3Dバンド・ブックの概要の確認（4h）					
11	吹奏楽合奏教本について：2．ティップス・フォー・バンド [課題（予習、復習）]ティップス・フォー・バンドの概要の確認（4h）					
12	吹奏楽合奏教本について：3．JBCバンドスタディー、スーパーサウンドトレーニング、トレジャリー・オブ・スケール [課題（予習、復習）]JBCバンドスタディー、スーパーサウンドトレーニング、トレジャリー・オブ・スケールの概要の確認（4h）					
13	学校、社会人などアマチュア吹奏楽団の運営方法について：1．規約 [課題（予習、復習）]学んだことの復習（4h）					
14	学校、社会人などアマチュア吹奏楽団の運営方法について：2．組織 [課題（予習、復習）]学んだことの復習（4h）					
15	学校、社会人などアマチュア吹奏楽団の運営方法について：3．広報、渉外 [課題（予習、復習）]学んだことの復習（4h）					
時間外での学修	時間外での学習は効率良く無理のないように取り組んでください。疑問点、新たに浮かんだ着眼点はいつでもメモを取り空き時間などを有効に活用し資料集めやまとめを行なってください。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	吹奏楽概論では広く吹奏楽に関わることを扱っていきます。作曲家や作品についての知見は吹奏楽検定などでも問われています。研究対象の資料については書籍、インターネット、CD、DVDなど幅広く活用してください。授業内容に留まらず質問は積極的に行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。					

【3W5S110】吹奏楽概論		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	小林 聡					
資格・制限等	Wコース必修					
資格等	音療選択（音楽）					
実務家教員	大学非常勤講師・20年、演奏家・36年、作編曲家・23年					
授業方法	吹奏楽における記譜法、編曲法、楽曲の様式など楽譜との関わりを講義形式で説明していきます。編曲の課題を実際に行いながら移調、楽器の役割を理解します。時代ごとの様式を研究しその演奏方法の違いを学修します。					
到達目標	知識・理解	吹奏楽における記譜法を理解する。時代ごとのスタイルの違いを知る。				
	思考・判断・表現	様々なスタイルの楽曲に対して的確な判断ができるようになるために楽譜を読み解く方法を学ぶ。				
	技能	各楽器の特徴を掴み記譜法を適切に扱えるようになる。				
	関心・意欲・態度	自ら題材を選び意欲的に学修を進めながら吹奏楽、音楽全般に携わることへの幸福度を高め、社会貢献へのステップとする。				
授業内容	吹奏楽の記譜法、編曲法、時代ごとの様式を学修します。吹奏楽における楽器の役割を理解し、基本的な知識を身につけます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	10	10	-	50
	授業時間内課題	20	10	10	-	40
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	50	20	20	10	100
評価の特記事項	理解の達成度と問題解決への意欲を重視します。					
ICT活用	課題等への質疑応答。					
アクティブ・ラーニングの活用	理解度を高めるための小テスト。移調、編曲などの実施。					
課題に対するフィードバック	作成した編曲楽譜のチェック、アドバイスをを行います。					
テキスト						
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション、吹奏楽の総譜において各楽器がどのように扱われるか、スコア全体の概要を理解します。 [課題（復習）]学んだことの復習（4h）					
2	楽器ごとの調性、楽器の指定による移調の実習 1. 木管楽器の音域、倍音、特殊奏法、記譜について学修します。 [課題（復習）]学んだことの復習 移調の練習（4h）					
3	楽器ごとの調性、楽器の指定による移調の実習 2. 金管楽器の音域、倍音、特殊奏法、記譜について学修します。 [課題（復習）]学んだことの復習 移調の練習（4h）					
4	打楽器、その他の楽器の構造、音域、記譜について学修します。 [課題（復習）]学んだことの復習 打楽器のパート譜の写譜（4h）					
5	記譜法について的小テストを行いこれまでの学修を振りかえり知識と習熟度を高めます。 [課題（復習）]学んだことの復習、小テストでの問題点の確認（4h）					
6	吹奏楽と管弦楽の総譜の比べ相違点を確認し、概要を把握します。 [課題（復習）]学んだことの復習（4h）					
7	管弦楽のスコアの研究。弦楽器の記譜法、作曲家による金管楽器の記譜法の違いを学修します。 [課題（復習）]学んだことの復習（4h）					
8	オーケストラのスコアからアンサンブルの編成にトランスクリプションを行います。 [課題（予習）]各自30小節前後の曲を用意しておくこと。（曲の一部分でも可）（4h）					
9	前回の続き [課題（復習）]トランスクリプションの続きを行う（4h）					
10	ピアノの作品を小編成の吹奏楽にアレンジします。 [課題（予習）]各自30小節前後の曲を用意しておくこと。（曲の一部分でも可）（4h）					
11	前回のつづき [課題（復習）]アレンジの続きを行う（4h）					
12	楽曲の様式 1. ルネサンスからバロックの時代の舞曲を中心にリズムとその扱いについて学修します。 [課題（復習）]学んだことの復習、様々な舞曲の具体例を探す（4h）					
13	楽曲の様式 2. 古典、ロマンの様式を学修します。 rond形式、ソナタ形式を理解する。 [課題（復習）]学んだことの復習、様々な rond形式、ソナタ形式の具体例を探す（4h）					
14	楽曲の様式 3. 近、現代の様式を学修します。19世紀以降の和声、音階の特徴を理解する。 [課題（復習）]学んだことの復習、授業で扱った曲以外の近、現代の音楽を鑑賞する（4h）					
15	楽曲の様式のまとめ 小テスト [課題（復習）]小テストでの問題点の確認（4h）					
時間外での学修	編曲にあたっては、各自自由に曲目を選択し授業時間で完成できないものについては持ち帰って行ってください。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	吹奏楽概論では広く吹奏楽に関わることを扱っていきます。授業内容に留まらず質問は積極的に行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。					

【3W5B213】演奏会研究		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
資格等							
実務家教員	吹奏楽指導者(含 高等学校教員)37年						
授業方法	実際に鑑賞する公演や、演奏会に関するテーマについて、各自調査・研究のうえ資料を作成し、10分程度のプレゼンテーションを行ないます。また個々に、各発表に対する感想をチェックシートに記入し、発表者へ渡します。各テーマ発表終了後にGoogleフォームによる確認テストと振り返り調査を行います。						
到達目標	知識・理解	鑑賞する演奏会における演奏者の基本情報やプログラム等を調べた上で、演奏会に臨み、その知識を理解することができる。また、与えられたテーマについて調べ、研究することで、そこから得られた知識を理解し活用することができる。					
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ理解し、自身の演奏表現に活かすことができる。また、他者の調査内容を聞くことにより、自己表現力を磨き、次の発表に活かすことができる。					
	技能	基本的な情報収集能力を磨き、発表を通じて、社会人・職業人に必要なコミュニケーション能力を身につける。					
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	演奏会に関する基本的な知識や教養について学修します。鑑賞演奏会について、演目や出演者などを研究する事で、基本的な情報を持って鑑賞に臨みます。本番の演奏家の姿勢や表現方法を学び、自分の演奏に活かします。また、与えられたテーマを研究することで、新しい知識や教養を身につけます。研究成果を発表することによって、基本的なプレゼンテーション能力を磨きます。相互に批評・評価する中で、傾聴力や、的確にアドバイスできる力を養成します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	資料提出・発表		20	20	20	20	80
	小テスト		10	10	-	-	20
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項	資料と、発表・講評は、それぞれ観点別に評価します。発表は、態度・話し方、内容・構成を細かく項目別に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終の評価を受ける資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Googleフォーム、学生ポータル)						
アクティブラーニングの活用	グループ・ディスカッション、探求学習など						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、各発表後に個々にアドバイスをメールにて送付します。また、確認テストには、解答の解説、質疑応答を行うとともに、振り返り調査は、まとめて提示し総括します。						
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、この授業で学ぶこと。研究の仕方、授業内容、到達目標等。 [課題(準備)]シラバスの熟読。演奏会についての考察課題。演奏会研究冒頭調査。(1~2h)						
2	演奏会についての考察(第1回授業振り返りと発展) プレゼンテーション資料作成の仕方。発表の仕方。 「世界の音楽祭研究」発表についての解説および、調査・発表対象の選択。 [課題(準備)]「世界の音楽祭研究」発表準備・資料作成。(5~6h)						
3	第27回ウインドアンサンブル定期演奏会について 意義・目的・プログラム等 [課題(復習・準備)]第27回定期演奏会に関する検討事項の復習、考察。「世界の音楽祭研究」発表準備・資料作成。(3~4h)						
4	「世界の音楽祭研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)]本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)						
5	「世界の音楽祭研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)]本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)						
6	「世界の音楽祭研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)]本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)						
7	「世界の音楽祭研究」発表振り返り調査および、「世界の音楽祭研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。 「鑑賞演奏会分野別研究」発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 [課題(復習・準備)]「世界の音楽祭研究」全般についての復習。自分の発表の振り返り・反省。他者発表の振り返りと考察。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(2~3h)						



内容	
実施回	授業内容・目標
8	「世界の音楽祭研究」についてのまとめ 確認テスト結果及び振り返り調査の省察。質疑応答、ディスカッション。 [課題(復習・準備)]本日の授業の復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(3~4h)
9	第27回ウインドアンサンブル定期演奏会について 役割分担 [課題(復習・準備)]第27回定期演奏会に関する検討事項の復習、考察。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(3~4h)
10	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)]本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)
11	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)]本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)
12	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)]本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)
13	「鑑賞演奏会分野別研究」発表振り返り調査および、「鑑賞演奏会分野別研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。 [課題(復習・準備)]「鑑賞演奏会分野別研究」全般についての復習。自分の発表の振り返り・反省。他者発表の振り返りと考察。(2~3h)
14	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのまとめ 確認テスト結果及び振り返り調査の省察。質疑応答、ディスカッション。 「鑑賞演奏会」についての説明。 [課題(復習・準備)]本日の授業の復習。鑑賞演奏会に向けて準備する。(3~4h)
15	前期全体のまとめ。後期に向けてのガイダンス。 第27回ウインドアンサンブル定期演奏会について 係別報告 [課題(復習・準備)]前期の研究をまとめ、自分たちの定期演奏会に活かしていく。(2~3h)
時間外での学修	各発表については、内容の充実した資料作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中でより中身の濃い発表ができるように準備を進めてください。各確認テスト、調査、課題については期限を厳守すること。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：25~40時間]
受講学生へのメッセージ	実際の鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。他者の調査内容や発表姿勢を参考にして、自分の知識や表現力を磨いていきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3W5S214】演奏会研究		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	鈴木 孝育					
資格・制限等	Wコース必修					
資格等						
実務家教員	吹奏楽指導者(含 高等学校教員)37年					
授業方法	実際に鑑賞する演奏会について、各自調査・研究のうえ資料を作成し、10分程度のプレゼンテーションを行います。また個々に、各発表に対する感想をチェックシートに記入し、発表者へ渡します。各テーマ発表終了ごとにGoogleフォームによる確認テストと振り返り調査を行います。					
到達目標	知識・理解	鑑賞する演奏会における演奏者の基本情報やプログラム等を調べた上で、演奏会に臨み、その知識を理解することができる。				
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ理解し、自身の演奏表現に活かすことができる。また、他者の調査内容を聞くことにより、自己表現力を磨き、次の発表に活かすことができる。				
	技能	基本的な情報収集能力を磨き、発表を通じて、社会人・職業人に必要なコミュニケーション能力を身につける。				
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	演奏会に関する基本的な知識や教養について学修します。鑑賞演奏会について、演目や出演者などを研究する事で、基本的な情報を持って鑑賞に臨みます。本番の演奏家の姿勢や表現方法を学び、自分の演奏に活かします。また、研究成果を発表することによって、基本的なプレゼンテーション能力を磨きます。相互に批評・評価の中で、傾聴力や、的確にアドバイスできる力を養成します。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	資料提出・発表	20	20	20	20	80
	小テスト	10	10	-	-	20
	合計(点)	30	30	20	20	100
評価の特記事項	資料と、発表・講評は、それぞれ観点別に評価します。発表は、態度・話し方、内容・構成を細かく項目別に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終の評価を受ける資格はありません。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Googleフォーム、学生ポータル)					
アクティブ・ラーニングの活用	グループ・ディスカッション、探求学習など					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、各発表後に個々にアドバイスをメールにて送付します。また、確認テストには、解答の解説、質疑応答を行うとともに、振り返り調査は、まとめて提示し総括します。					
テキスト	なし					
参考書・教材	その都度配布					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業日程の説明、鑑賞演奏会分野別研究・選択演奏会研究発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 [課題(準備・復習)]「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(2~3h)					
2	第27回ウインドアンサンブル定期演奏会について 情宣活動について(チラシ・案内・広報など) [課題(復習・準備)]第27回定期演奏会「情宣活動」に関する検討事項の復習、考察。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(3~4h)					
3	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)]本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)					
4	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)]本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)					
5	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)]本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)					
6	「鑑賞演奏会分野別研究」発表振り返り調査および、「鑑賞演奏会分野別研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。 「選択演奏会研究」発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 [課題(復習・準備)]「鑑賞演奏会分野別研究」全般についての復習。自分の発表の振り返り・反省。他者発表の振り返りと考察。「選択演奏会研究」発表準備・資料作成。(2~3h)					
7	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのまとめ 確認テスト結果及び振り返り調査の省察。質疑応答、ディスカッション。 「鑑賞演奏会」についての説明。 [課題(復習・準備)]本日の授業の復習。鑑賞演奏会に向けて準備する。「選択演奏会研究」発表準備・資料作成。(3~4h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
8	第27回ウインドアンサンブル定期演奏会について プログラム、進行、舞台・演出について [課題(復習・準備)] 第27回定期演奏会に関する検討事項の復習と準備。「選択演奏会研究」発表準備・資料作成。(3~4h)
9	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)] 本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)
10	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)] 本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)
11	「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する。各発表に対するチェックシートを記入し、本人へ渡す。 [課題(復習・準備)] 本日の各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。自分の発表と比較し、取り入れられるところを探る。(1~2h)
12	「選択演奏会研究」発表振り返り調査および、「選択演奏会研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。 [課題(復習・準備)] 「選択演奏会研究」全般についての復習。自分の発表の振り返り・反省。他者発表の振り返りと考察。(2~3h)
13	「選択演奏会研究」についてのまとめ 確認テスト結果及び振り返り調査の省察。質疑応答、ディスカッション。 [課題(復習・準備)] 本日の授業の復習。(3~4h)
14	第27回ウインドアンサンブル定期演奏会について 情宣活動、進行、司会、舞台・演出について [課題(復習・準備)] 第27回定期演奏会に関する検討事項の復習と準備。(3~4h)
15	後期全体のまとめ。 第27回ウインドアンサンブル定期演奏会について [課題(復習・準備)] 後期全体の反省。第27回定期演奏会に関する検討事項の復習と準備。(2~3h)
時間外での学修	各発表については、内容の充実した資料作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中でより中身の濃い発表ができるように準備を進めてください。各確認テスト、調査、課題については期限を厳守すること。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：25~40時間]
受講学生へのメッセージ	実際の鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。他者の調査内容や発表姿勢を参考にして、自分の知識や表現力を磨いていきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3R6B301】リペア基礎 A		音楽総合学科		1年前期		
		3単位	必修	演習	90時間	
教員	松永 幸宏					
資格・制限等	Rコース必修					
資格等						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年					
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストなどを入れながら、木管楽器の基本的なリペア技術、基礎的な構造知識が身に付け、問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。					
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することができる。				
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。				
	技能	各木管楽器の修理個所に的確な技能を持って対応する。				
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心・興味を持ち、自らが率先して学修することができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取り扱い方を学んでいきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	30	50	-	80
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	10	30	50	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）					
アクティブ・ラーニングの活用	なし					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。					
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	必要な資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の進め方、工具の確認、使用方法について説明 [課題(復習)]工具の使い方、名称の復習(1h)					
2	工具の加工、商品知識 [課題(復習)]加工技術の復習(3h)					
3	クラリネットの初歩実習 キー分解組み立てを行う事で、構造やキー名称を学修する。また、工具の使用 方法についての説明も行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立(2h)					
4	クラリネットの基礎実習 連絡バランス調整及び、タンゴ交換手順 [課題(復習)]学んだタンゴ交換(4h)					
5	フルート初歩実習 キー分解組み立てを行う事で、構造やキー名称を学修する。また、工具の使用 方法についての説明も行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立(2h)					
6	フルートの基礎実習 タンゴ交換手順 [課題(復習)]学んだタンゴ交換(4h)					
7	フルートの基礎実習 タンゴ交換、連絡バランス調整 [課題(復習)]学んだタンゴ交換(4h)					
8	サクソフォンの初歩実習 キー分解組み立てを行う事で、構造やキー名称を学修する。また、工具の 使用方法についても説明を行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立(2h)					
9	サクソフォンの基礎実習 タンゴ交換手順 [課題(復習)]学んだタンゴ交換(4h)					
10	サクソフォンの基礎実習 タンゴ交換手順、連絡バランス調整 [課題(復習)]学んだタンゴ交換(4h)					
11	クラリネットの基礎実習 ジョイントコルク交換 刃物等を使用するため、作業について細かく説明を行う。 [課題(復習)]学んだジョイントコルク交換(3h)					
12	クラリネットの基礎実習 全体調整(パネ圧、開き等の確認) [課題(復習)]学んだバランス調整(4h)					
13	フルートの基礎実習 ヘッドコルク交換、反射板位置確認、 [課題(復習)]学んだヘッドコルク交換、反射板位置(3h)					
14	フルートの基礎実習 全体調整(パネ圧、開き、アソビの取り方等) [課題(復習)]学んだバランス調整(4h)					
15	前期木管楽器復習演習 木管楽器全般について復習を行い、未達成な項目を解消する。(1h)					

時間外での学修	<p>授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。  また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。  特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]</p>
受講学生へのメッセージ	<p>全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解をすることが上達への近道です。  板書は、ルーズリーフなどに書き込むと各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。オフィスアワーは、毎週月曜日授業後 F201教室で行います。</p>

【3R6S302】リペア基礎 B		音楽総合学科		1年後期			
		3単位	必修	演習	90時間		
教員	松永 幸宏						
資格・制限等	Rコース必修						
資格等							
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年						
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布プリントなどを取り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して総合的なリペア技術を学修し問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器のメーカーによるキシステムの違い（特別講義で解説します）を理解する。					
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考え作業を組み立てる。					
	技能	各木管楽器のリペア箇所適切な技能を持って対応する。					
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関する情報、他社系のリペア手段など興味を持って、自らが率先して学修する。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	前期で学んだ木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の基礎的な実習を更に拡大してリペアを行う事によって目指す品質はどう言ったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等使い方を理解したと思いますが、より安全な作業を行うには、どうしたら良いかを考えながら学んでいきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		10	30	50	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
アクティブ・ラーニングの活用	なし						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	サクソフォンの基礎実習 ネットコルク交換 [課題(復習)]学んだネットコルク交換(3h)						
2	サクソフォンの基礎実習 全体調整(テーブルキー)タンポ交換 [課題(復習)]学んだバランス調整(3h)						
3	クラリネットの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)						
4	クラリネットの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)						
5	フルートの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)						
6	フルートの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)						
7	サクソフォンの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)						
8	サクソフォンの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)						
9	クラリネットの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)						
10	クラリネットの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)						
11	フルートの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)						
12	フルートの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)						
13	サクソフォンの総合実習 部分タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)						
14	サクソフォンの総合実習 部分タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)						
15	クラリネット全タンポ交換、全体調整、ジョイントコルク交換 [課題(復習)]総合的な復習(3h)						
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]						

受講学生への  
メッセージ

基本手順をしっかり身につけ2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。  
オフィスアワーは、授業後F201教室で行います。

【3R6B305】リペア基礎 A		音楽総合学科		1年前期			
		4単位	必修	演習	120時間		
教員	松永 幸宏・松岡 龍						
資格・制限等	Rコース必修						
資格等							
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年						
授業方法	全体での実技を中心として、講義、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的な作業動作、基本的な知識、技能が身に付け問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することができる。					
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。					
	技能	各管楽器の修理箇所への的確な技能を持って対応する。					
	関心・意欲・態度	管楽器のみならず、吹奏楽等で使用される楽器について関心や興味を持って、自らが率先して知識向上に向け学修する。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず広角的なアプローチから、機能、構造を理解して、基礎となるリペア技術を学修する。安全な作業を十分に理解して、工具の適切な使用方法を学び、リペアに必要な基本動作、扱い方を身につけ、基礎的な知識、技能を習得する。正確性、効率性、商品知識や接客など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	10	-	-	60
	実技試験		-	-	30	-	30
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		50	10	30	10	100	
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
アクティブ・ラーニングの活用	なし						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	工具の加工 ヤスリ掛け実習 [課題(復習)]学んだヤスリ掛け(4h)						
2	工具の加工 ヤスリ掛け実習 [課題(復習)]学んだヤスリ掛け(4h)						
3	管楽器基礎知識 メンテナンス用品の取り扱い他 (DVD使用) [課題(復習)]学んだ取り扱い方法(4h)						
4	管楽器基礎知識 メンテナンス用品の取り扱い他 (DVD使用) [課題(復習)]学んだ取り扱い(4h)						
5	クラリネット、トランペット基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(4h)						
6	管楽器製造方法 使用材料や加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の材料、加工法(4h)						
7	管楽器製造方法 使用材料、表面仕上げ、加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の表面処理(4h)						
8	フルート、ホルン基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(4h)						
9	管楽器製造方法 使用材料、表面仕上げ、加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の製造工程(4h)						
10	管楽器以外の楽器類 [課題(復習)]学んだ各種楽器の種類(4h)						
11	サクソフォン、トロンボーン基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(4h)						
12	主要管楽器メーカー特別講義 [課題(復習)]学んだ特別講義内容(4h)						
13	楽器店での管楽器リペア 先輩達の進路を交えて [課題(復習)]学んだ現場での修理(4h)						
14	工房や管楽器専門店での管楽器リペア 先輩達の進路を交えて [課題(復習)]学んだ楽器店における修理(4h)						
15	前期総合基礎演習 [課題(復習)]学んだ修理(4h)						



時間外での学修	<p>授業で学んだ手順をしっかりと復習し、基礎を身につけてください。  また、日頃から多くの楽器類を見る触れるなどして、様々な楽器を知って下さい。  特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。  [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]</p>
受講学生へのメッセージ	<p>全員が初めて学ぶことばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持って取り組んで下さい。分からないことを後回しにしないで、直ぐに質問し理解することが上達への近道です。  オフィスアワーは授業後 F201教室で行います。</p>

【3R6S306】リペア基礎 B		音楽総合学科		1年後期			
		4単位	必修	演習	120時間		
教員	松永 幸宏・松岡 龍						
資格・制限等	Rコース必修						
資格等							
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年						
授業方法	全体での実技を中心とし、講義、DVD、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的なリペア技能、基本的な知識等を身に付け、問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握する事ができる。					
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。					
	技能	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味、関心をもち自らが率先して学修することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず、多角的なアプローチから、仕組みや構造を理解し、基礎となるリペア技能を学修する。安全な作業を十分に理解し、適切な工具の使用法を学び、リペア技能に必要な基本動作や扱い方を身につける、基本的な知識や技能の習得。正確性、効率性、商品知識、接客など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。実技以外で、楽器店状況や工房、製造メーカーの現状等についても講話を行っていきます。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験		50	10	-	-	60
	実技試験		-	-	30	-	30
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	10	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
アクティブ・ラーニングの活用	なし						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(4h)						
2	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(4h)						
3	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(4h)						
4	主要楽器メーカー講習 [課題(復習)]学んだメーカー講習内容(4h)						
5	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(4h)						
6	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(4h)						
7	特殊工具を使用するリペア [課題(復習)]学んだ特殊工具使用方法(4h)						
8	総合確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(4h)						
9	楽器店での管楽器リペア [課題(復習)]学んだリペア業務の内容(4h)						
10	楽器店での管楽器リペア [課題(復習)]学んだ店頭でのリペア業務(4h)						
11	楽器店での管楽器リペア [課題(復習)]学んだ学校販売でのリペア業務(4h)						
12	主要管楽器メーカー特別講義 [課題(復習)]学んだメーカー特別講義内容(4h)						
13	後期総合基礎復習 [課題(復習)]学んだ時間短縮及び苦手修理(4h)						
14	後期総合基礎復習 [課題(復習)]学んだ時間短縮及び苦手修理(4h)						
15	後期総合基礎復習 [課題(復習)]時間短縮及び苦手修理(4h)						

時間外での学修	<p>繰り返し練習することによって精度、時間短縮に心がけてください。  また、日頃から多くの楽器を見る触れる等で、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。  [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]</p>
受講学生へのメッセージ	<p>基本手順をしっかり身につけ、2年次への準備をしっかりして下さい。  オフィスアワーは授業後 F201教室で行います。</p>

【3R6B303】リペア基礎 A		音楽総合学科		1年前期			
		3単位	必修	演習	90時間		
教員	松永 幸宏						
資格・制限等	Rコース必修						
資格等							
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年						
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストを入れながら、金管楽器の基本的なリペア技術、基本的な構造知識が身につく授業にしています。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し、基本的な管楽器の状態を把握することができる。					
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断する。					
	技能	各金管楽器の修理箇所に対応する技能を持って対応する。					
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心、興味を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取り扱いを学んでいきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	30	50	-	80
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		10	30	50	10	100	
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
アクティブ・ラーニングの活用	なし						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	工具製作 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
2	トランペットの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
3	トランペット基礎実習 ピストン調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
4	トランペット基礎実習 抜き差し管調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
5	ハンダ付け（溶接）初歩実習 ハンダ及びペースト等材料に対する知識から、溶接作業手順について説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
6	ハンダ付け（溶接）初歩実習 ハンダ及びペースト等材料に対する知識から、溶接作業手順について説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
7	ホルンの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、使用工具の説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
8	ホルンの基礎実習 ロータリー系（紐）交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
9	ホルンの基礎実習 ロータリー調整、使用工具説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
10	トロンボーンの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、使用工具等説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
11	トロンボーンの基礎実習 ウォーターキー分解組み立て、コルク交換、スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
12	トロンボーンの基礎実習 スライド曲がり修正 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
13	ハンダ付け基礎実習 ハンダ分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
14	ハンダ付け基礎実習 ハンダ分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
15	前期金管楽器基礎復習 金管楽器全般についての復習を行い、未達成な項目を解消する。 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						

時間外での学修	<p>授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。  また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。  特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。  [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]</p>
受講学生へのメッセージ	<p>全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解をすることが上達への近道です。  板書は、ルーズリーフなどに書き込むと各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。オフィスアワーは、授業後 F201教室で行います。</p>

【3R6S304】リペア基礎 B		音楽総合学科		1年後期		
		3単位	必修	演習	90時間	
教員	松永 幸宏					
資格・制限等	Rコース必修					
資格等						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年					
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布物、DVD、各社カタログ等を採り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して、総合的なリペア技術を学修します。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場場により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。					
到達目標	知識・理解	各金管楽器のメーカーによる構造等の違いが理解できる。(特別講義等で解説します。)				
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考えて作業ができる。				
	技能	各楽器のリペア箇所に、適切な技能を持って対処ができる。				
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関する情報、他社系のリペア手法など興味を持って、自らが率先して学修ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	前期で学んだ金管楽器(トランペット、ホルン、トロンボーン)の基礎的な実習をさらに拡大して、リペアを行うことによって目指す品質はどういったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等の使用方法を理解したと思いますが、より安全に作業を行うにはどうしたら良いかを考えながら学んでください。					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	30	50	-	80
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	10	30	50	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(学生ポータルなど)					
アクティブ・ラーニングの活用	なし					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。					
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	必要な資料は配付します。					
	内容					
実施回	授業内容・目標					
1	トランペット基礎実習 抜き差し管へこみ修正、ピッチ、平行度調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)					
2	トランペット基礎実習 抜き差し管へこみ修正、ピッチ、平行度調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)					
3	トランペット基礎実習 ハンダ分解組み立て 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)					
4	トランペット基礎実習 ハンダ分解組み立て 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)					
5	ホルンの基礎実習 ロータリー調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)					
6	ホルンの基礎実習 ロータリー調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)					
7	ホルンの基礎実習 レバー位置、ロータリー系(紐)のテンション調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)					
8	ホルンの基礎実習 レバー位置、ロータリー系(紐)のテンション調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)					
9	トロンボーンの基礎実習 スライド調整、ウォーターキイコルク交換 【課題(復習)】学んだ内容の復習(3h)					
10	トロンボーンの基礎実習 スライド調整・スライドストップフェルト交換 【課題(復習)】学んだ内容の復習(3h)					
11	金管楽器基礎実習 マウスピース固着・マウスピースシャンク変形修正・抜き差し管固着修正 【課題(復習)】学んだ内容の復習(3h)					
12	トランペットの基礎実習 ピストン固着修正・ハンダ付け 【課題(復習)】学んだ内容の復習(3h)					
13	ホルンの基礎実習 ロータリー固着修正・ロータリー系(紐)交換・全体調整 【課題(復習)】学んだ内容の復習(3h)					
14	トロンボーンの基礎実習 スライド調整・ウォーターキイコルク交換・スライドストップフェルト交換 【課題(復習)】学んだ内容の復習(3h)					
15	ホルンの基礎実習 ロータリー調整・ロータリー系(紐)交換・レバー位置修正・全体調整 【課題(復習)】学んだ内容の復習(3h)					
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間]					

受講学生への  
メッセージ

基本手順をしっかり身につけ2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。  
オフィスアワーは、授業後 F201教室で行います。

【3R6B222】楽器奏法		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	佐溝 佳奈					
資格・制限等	Rコース必修					
資格等						
実務家教員						
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。					
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造を理解し、その説明ができる。( )				
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。( )				
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。( )				
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。( )				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼ばれません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	-	60	-	60
	各楽器の修得力	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項						
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	個人レッスンを中心に進めます。					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスをを行います。					
テキスト						
参考書・教材	楽譜等その都度配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [課題(予習)]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)					
2	楽器1レッスン1:グループA(FI) B(CI) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
3	楽器1レッスン2:グループA(FI) B(CI) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
4	楽器1レッスン3:グループA(FI) B(CI) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
5	楽器1レッスン3:グループA(FI) B(CI) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
6	楽器2レッスン1:グループA(CI) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(FI) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
7	楽器2レッスン2:グループA(CI) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(FI) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
8	楽器2レッスン3:グループA(CI) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(FI) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
9	楽器2レッスン4:グループA(CI) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(FI) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(予習)]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)					
10	楽器3レッスン1:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(FI) F(CI) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
11	楽器3レッスン2:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(FI) F(CI) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
12	楽器3レッスン3:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(FI) F(CI) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
13	楽器3レッスン4:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(FI) F(CI) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の復習(1～2h)					
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題(復習・準備)]レッスン楽器の練習(1～2h)					



内容	
実施回	授業内容・目標
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題(復習・準備)] レッスン楽器の練習(1~2h)
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間]
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンにあたっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。

【3R6S223】楽器奏法		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	佐溝 佳奈					
資格・制限等	Rコース必修					
資格等						
実務家教員						
授業方法	楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。					
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。( )				
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。( )				
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。( )				
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。( )				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼ばれません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使われる代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	10	10	-	-	20
	各楽器の修得力	-	-	60	-	60
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項	ICT活用					
アクティブラーニングの活用	個人レッスンを中心に進めます。					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスをを行います。					
テキスト						
参考書・教材	楽譜等その都度配布します。					

内容	
実施回	授業内容・目標
1	楽器4レッスン1:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題・復習]レッスン楽器の練習(2h～3h)
2	楽器4レッスン2:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・復習]レッスン楽器の練習(2h～3h)
3	楽器4レッスン3:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
4	楽器4レッスン4:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]次回レッスン楽器の練習(2h～3h)
5	楽器5レッスン1:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
6	楽器5レッスン2:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
7	楽器5レッスン3:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
8	楽器5レッスン4:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]次回レッスン楽器の練習(2h～3h)
9	楽器6レッスン1:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
10	楽器6レッスン2:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
11	楽器6レッスン3:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)
12	楽器6レッスン4:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]次回レッスン楽器の練習(2h～3h)
13	後期不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h～3h)

内容	
実施回	授業内容・目標
14	後期不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h~3h)
15	後期不得意楽器のレッスン3 学期末実技試験対策 [課題・準備]レッスン楽器の練習(2h~3h)
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間]
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。

【3R6B226】管楽器・業界研究		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	松永 幸宏						
資格・制限等	Rコース必修						
資格等							
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年						
授業方法	講義形式で行います。より理解を深めるため、カタログ等を使用します。一方的で受け身な授業にならないように受講学生の発言、発表を求めることがあります。例えば高校の吹奏楽活動等で担当した楽器に関する情報（担当動機、使用メーカー等）を発表してもらい全員で共有します。						
到達目標	知識・理解	管打楽器の歴史、発音原理、構造、材質等の基礎知識、各楽器ごとの特徴を理解できる。					
	思考・判断・表現	十分な理解を得られる伝え方を研究、工夫しコミュニケーションをとることができる。					
	関心・意欲・態度	管打楽器及び関連商品の幅広い知識と新しい情報に敏感であり、より専門的な情報収集に努めることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器業界で即戦力として通用する人材に必要な、豊富でより専門的な知識の修得を行います。</li> <li>・お客様に信頼され、支持され、地域に貢献することができる人間性豊かな人材の育成をします。</li> </ul>						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		70	20	-	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		70	20	-	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修の取り組み、意欲等の状況で評価します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
アクティブ・ラーニングの活用	なし						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。						
テキスト	『管楽器価格一覧表2023年度版』株式会社ミュージックトレード社(1,100円) 『打楽器価格一覧表2023年度版』株式会社ミュージックトレード社(990円)						
参考書・教材	管・打楽器価格一覧表、楽器別カタログを使用します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス この授業で学ぶこと、楽器の基礎知識、楽器ごとの基礎知識 [課題(復習)]学んだことの復習。(3~5h)						
2	管楽器の基礎知識 楽器の条件、歴史、発音原理による分類、楽器の分類と種類、構造、管体材料について。 [課題(復習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)						
3	管楽器の基礎知識 バルブとスライド、円筒管と円錐管、トーンホール、キイメカニズムについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)						
4	フルート 各国での名称、歴史、種類、キイタイプ、管体材料、トーンホール、ヘッド、ハンドメイド、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)						
5	クラリネット 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、音域の名称と特徴、リード・リガチャー・マウスピースの3点セットの重要性について、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)						
6	サクソフォン 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、ネック、リード、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだ事の復習と予習。(3~5h)						
7	オーボエ・ファゴット 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)						
8	トランペット 各国での名称、歴史、種類、管体材料、バルブの種類、支柱と響き、ボアサイズ、トリガー、ベル、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)						
9	フレンチホルン 各国での名称、歴史、調性による分類、管体材料、2つの業界スタンダードタイプによる分類、デタッチャブル、ゲシュトップ、ベル、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(1h)						
10	トロンボーン 各国での名称、歴史、種類、管体材料、スライド、ロータリーバルブの種類、ボアサイズ、ベル、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)						
11	ユーフォニアム&チューバ 各国での名称、歴史、種類、管体材料、バルブの種類、管の巻き方、コンベンセイティングシステム、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	管楽器の基礎知識 サクソルン族 歴史、種類、イギリス式金管バンド編成について。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)
13	打楽器 コンサート打楽器、皮膜打楽器、音板打楽器の分類、名称、歴史、種類、構造。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)
14	リペアについて リペア業務 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)
15	まとめ 後期試験準備。課題 [課題(復習)](3~5h)
時間外での学修	最新情報を入手する習慣をつけましょう。カタログ、専門誌、インターネットなどで研究し、楽器本体は学生同士で研究しあいましょう。学生時代の特権です。 【この科目での望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	全ての楽器に興味を持ってください。そこから得た知識は楽器業界で仕事する上で必ず活かされます。全ての楽器のオールマイティな知識が求められます。 オフィスアワー：授業後は教室で対応します。

【3S9B101】音楽総合特講		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	服部 篤典・菅田 文子・鈴木 孝育・横井 香織・松永 幸宏						
資格・制限等	全コース必修						
資格等							
実務家教員							
授業方法	基本は講義形式ですが、内容により、演習形式でも行います。他の受講生と協力して、受講生同士の討論やグループワークなどを行う場面もあります。						
到達目標	知識・理解	音楽に関する分野の学びとともに社会人に求められる知識についても理解できる。					
	思考・判断・表現	音楽に関する分野の学びや社会的・職業的自立に向けた進路選択のための課題解決などに必要な思考・判断・表現力を身につける。					
	技能	社会人・職業人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能について、その基礎を身につける。					
	関心・意欲・態度	自己の進路目標や状況に応じて、意欲を持って主体的に学修に取り組むことができ、積極的に音楽を通じて人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。					
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	将来の就職に向けて、音楽総合学科卒業生、教員の他外部講師を招いて職業についての講義を行います。具体的な進路について自分で調べ、講師やクラス内で意見交換をすることにより、今後どのような学修をすべきかを明確にすることが目的です。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	学修記録ノート		30	30	20	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項	学修ノートの記入状況と受講態度で総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終評価を受ける資格がなくなります。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援 (Googleフォーム、学生ポータル)						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	それぞれの講義担当者による						
テキスト							
参考書・教材	授業で指示します。その他必要な資料等は授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、各コースの可能な職業、本学卒業生の進路についての説明(学科) [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
2	将来の職業についてグループワーク(学科) [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
3	職業を知る(1)公務員 : 自衛隊 [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
4	職業を知る(2)公務員 : 警察 [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
5	職業を知る(3)公務員 : 消防 [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
6	職業を知る(4)職業演奏家 [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
7	職業を知る(5)講師 : ピアノ、電子オルガン [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
8	職業を知る(6)講師 : 管楽器 [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
9	職業を知る(7)楽器店: 営業、販売、リペア、音楽教室、その他 [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
10	職業を知る(8)製造、メーカー、卸し [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
11	職業を知る(9)音楽療法: 福祉施設、病院等で働く音楽療法士について [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	職業を知る(1.0)一般職 : 吹奏楽団を有する企業、その他 [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)
13	職業を知る(1.1)一般職 : 地域企業、その他 [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)
14	レポート作成: 自分のなりたい職業について調べる。どのような仕事に就きたいか、そのためには何が必要かを調べてレポートにまとめ提出する。 [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)
15	レポート講評: 各コースアカデミックアドバイザーによりレポートの講評を行う(学生名は出さない)。 まとめ [課題(復習・準備)]興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)
時間外での学修	自分の興味のある仕事について自主的に調べ、講師に質問できるように準備をしてください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 60時間]
受講学生へのメッセージ	自ら積極的に学ぼうとする意識をしっかりと持って受講してください。 * 授業の順序や内容は、講師の都合で変更されることがあります。オフィスアワーは、各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。

【3S9S102】音楽総合特講		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	服部 篤典・菅田 文子・鈴木 孝育・横井 香織・松永 幸宏						
資格・制限等	全コース必修						
資格等							
実務家教員							
授業方法	基本は講義形式ですが、内容により、演習形式でも行います。、他の受講生と協力して、受講生同士の討論やグループワークなど行う場面もあります。						
到達目標	知識・理解	音楽に関する分野の学びとともに社会人に求められる知識についても理解できる。					
	思考・判断・表現	音楽に関する分野の学びや社会的・職業的自立に向けた進路選択のための課題解決などに必要な思考・判断・表現力を身につける。					
	技能	社会人・職業人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能について、その基礎を身につける。					
	関心・意欲・態度	自己の進路目標や状況に応じて、意欲を持って主体的に学修に取り組むことができ、積極的に音楽を通じて人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。					
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力を養うための基盤となる知識について、実践的な基礎的・汎用的能力から、一般的な社会常識なども含めて学修します。中心となる内容として、専門科目の学修につながる言語的能力を中心に、他の教養科目や専門科目を学ぶ際に必要となる基本的知識、一般的な社会人・職業人に求められる常識的な知識などを学んでいきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	学修記録ノート		30	30	25	-	85
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		30	30	25	15	100
評価の特記事項	学修ノートの記入状況と受講態度で総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終評価を受ける資格がなくなります。						
ICT活用	ICTを活用した自主学习支援 (Googleフォーム、学生ポータル)						
アクティブ・ラーニングの活用	グループ・ディスカッション、グループワーク						
課題に対するフィードバック	それぞれの講義担当者による						
テキスト							
参考書・教材	授業で指示します。その他必要な資料等は授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 社会人になるために(1) 日本語講座 (漢字・語彙) (総合教育センター) : 日本語検定の練習問題や過去問に取り組みながら、社会人にとって必要なマナーである「正しい日本語の使い方」を学ぶ。 [課題(復習) 授業で取り組んだ問題の復習をする。(1h)]						
2	社会人になるために(2) 日本語講座 (敬語) (総合教育センター) : 日本語検定の練習問題や過去問に取り組みながら、社会人にとって必要なマナーである「正しい日本語の使い方」を学ぶ。 [課題(復習) 授業で取り組んだ問題の復習をする。(1h)]						
3	社会人になるために(3) 「学生」と「社会人」の違い&職業観(学生・キャリア支援課) [課題(復習・発展)] 職業観について理解を深める。個々に職業観をまとめる。(3~5h)						
4	自己分析(学科) [課題(復習・準備)] 自己についての情報を収集し、自己理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
5	SPIの解き方 (総合教育センター) : 企業の就職試験で多く採用されているSPIについて、全体の構成を知り、実際の問題演習に取り組んで解き方を学ぶ。[課題(復習)] 問題演習で出来なかった所を復習する。(1h)						
6	SPIの解き方 (総合教育センター) : 企業の就職試験で多く採用されているSPIについて、全体の構成を知り、実際の問題演習に取り組んで解き方を学ぶ。[課題(復習)] 問題演習で出来なかった所を復習する。(1h)						
7	SPIの解き方 (総合教育センター) : 企業の就職試験で多く採用されているSPIについて、全体の構成を知り、実際の問題演習に取り組んで解き方を学ぶ。[課題(復習)] 問題演習で出来なかった所を復習する。(1h)						
8	書類作成の基本・作法(就職試験に必要な書類について)(学生・キャリア支援課) [課題(復習・発展)] 履歴書の書き方を確認し、自己のライフプランを設計する(3h~5h)						
9	履歴書、エントリーシートの書き方 自分の長所、アピールポイントを考える。グループワーク(学生・キャリア支援課) [課題(復習・発展)] 自己の長所を再確認し、自己アピールを字数に応じて作成する。(3h~5h)						
10	履歴書、エントリーシートの書き方 正しい形式で書く(学生・キャリア支援課) [課題(復習・発展)] エントリーシートの書き方を確認し、自己の進路希望職種を確認する(3h~5h)						
11	論作文の書き方 基本(学科) [課題(復習・発展)] 基本的な論作文の書き方について復習する。論作文課題に取り組む。(3~5h)						



内容	
実施回	授業内容・目標
12	面接(1) 基本(学生・キャリア支援課&総合教育センター) [課題(復習)]本日の学修内容について理解を深める。面接の基本事項をまとめる。(3~5h)
13	面接(2) 個人面接ロールプレイ(学生・キャリア支援課&総合教育センター) [課題(復習)]本日の学修内容について理解を深める。また、個々に個人面接の課題に取り組む。(3~5h)
14	面接(3) 集団面接ロールプレイ(学生・キャリア支援課&総合教育センター) [課題(復習)]本日の学修内容について理解を深める。また、個々に集団面接の課題に取り組む。(3~5h)
15	まとめ(学科) [課題(復習)]全講義内容を振り返り、個々に省察し、苦手な分野の克服に努める。(3~5h)
時間外での学修	各回のテーマについて関心を持ち、授業後は配布プリント等を復習し理解を深めてください。分からない点、疑問点は図書館等で調べ解決してください。学修した内容や課題とされた内容を確実に自主学習し、定着を図ってください。授業以外での学修の取組が希望の実現を確実に左右します。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]
受講学生へのメッセージ	自ら積極的に学ぼうとする意識をしっかりと持って受講してください。 * 授業の順序や内容は、進度等の都合で変更されることがあります。オフィスアワーは、各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。

【3S8S122】公務員・一般職試験対策		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	特になし						
資格等							
実務家教員							
授業方法	基本は講義形式ですが、内容により、グループディスカッション、グループワークなども行います。各分野別問題の解法の仕方、SPIについて解説した後、自宅での事前学習の確認テストを実施し、翌週その解説を行います。						
到達目標	知識・理解	社会人・職業人になるために求められる基本的な知識を身につけるとともに、音楽をライフワークにできる職業に就くために必要な教養についても理解できる。					
	思考・判断・表現	音楽に関する分野の学びや社会的・職業的自立に向けた進路選択のための課題解決などに必要な思考・判断・表現力を身につける。					
	技能	社会人・職業人になるために必要な能力や技能について、その基礎を身につける。					
	関心・意欲・態度	自己の目標や状況に向かって、意欲を持って主体的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。備考 ます。					
授業内容	職業人としての基盤となる知識について、実践的な活用能力から、一般的な社会常識なども含めて学修します。個々の進路実現のために「現代社会」「各分野別問題」「一般常識」「SPI検査」を中心に具体的な試験対策を学修します。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	10	-	60
	課題、提出物、受講態度		10	10	10	10	40
	合計(点)		40	30	20	10	100
評価の特記事項	課題、提出物、受講態度においては、提出状況や取り組む姿勢なども考慮し、総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Googleフォーム、学生ポータル)						
アクティブラーニングの活用	グループディスカッション、グループワークなど						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、学修課題については、毎回授業時に確認小テストを行い、翌週その解説をします。						
テキスト	『筆記試験対策ベーシックドリル「一般常識&SPI」』就職試験研究グループ 実教出版(1,200円) ISBN:978-4-407-34941-2						
参考書・教材	授業で指示もしくは配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス。キャリアデザインの基本的な考え方を理解し、働く意義を考える。 [課題(復習・予習)]シラバスの熟読。次時内容の予習を確実にを行う。(3~5h)						
2	社会を知る 現代社会の仕組みを学ぶ [課題(復習・予習)]日本の雇用制度や就職状況の把握。確認テスト範囲(国語・社会・英語)の勉強。次時内容の予習。(3~5h)						
3	働く環境を知る 働き方の種類、福利厚生など 国語 (漢字の読み書き)、社会 (日本地理)、英語 (単語)の定着と発展 [課題(復習・予習)]日本の企業の現状や福利厚生についての情報を集める。確認テスト(国語・社会・英語)の復習。次時内容の予習。(3~5h)						
4	問題集勉強の仕方(1)(社会科学) 国語 (漢字の読み書き)、社会 (世界地理)、英語 (熟語)の定着と発展 [課題(復習・予習)]社会科学系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。確認テスト(国語・社会・数学)の復習。次時内容の予習。(3~5h)						
5	問題集勉強の仕方(2)(人文科学) 国語 (漢字の読み書き)、社会 (日本史)、英語 (英会話表現)の定着と発展 [課題(復習・予習)]人文科学系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。確認テスト(国語・社会・数学)の復習。次時内容の予習。(3~5h)						
6	問題集勉強の仕方(3)(自然科学) 国語 (同義語、対義語、ことわざ、故事成語)、社会 (世界史)、数学 (まとめ)の定着と発展 [課題(復習・予習)]自然科学系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。確認テスト(国語・社会・数学)の復習。次時内容の予習。(3~5h)						
7	問題集勉強の仕方(4)(一般知能 数的推理(1)) 国語 (同音異義語、同訓異義語)、社会 (政治、国際政治)、数学 (数と式)の定着と発展 [課題(復習・予習)]一般知能系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。確認テスト(国語・社会・数学)の復習。次時内容の予習。(3~5h)						
8	問題集勉強の仕方(5)(一般知能 数的推理(2)) 国語 (同義語、対義語、ことわざ、故事成語)、社会 (社会問題、経済)、数学 (方程式と不等式)の定着と発展 [課題(復習・予習)]一般知能系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。確認テスト(国語・社会・数学)の復習。次時内容の予習。(3~5h)						
9	問題集勉強の仕方(6)(一般知能 判断推理(1)) 国語 (四字熟語)、社会 (金融・財政、企業・経営)、数学 (関数とグラフ)の定着と発展 [課題(復習・予習)]一般知能系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。確認テスト(国語・社会・数学)の復習。次時内容の予習。(3~5h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	問題集勉強の仕方(7)(一般知能 判断推理(2)) 国語 (慣用表現、敬語表現他)、社会 (国際経済、思想・宗教)、数学 (比と割合、平均)の定着と発展 [課題(復習・予習)]一般知能系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。確認テスト(国語・社会・数学)の復習。次時内容の予習。(3~5h)
11	問題集勉強の仕方(8)(一般知能 文章理解) 国語 (文学史他)、社会 (環境、福祉)、数学 (場合の数と確率)の定着と発展 [課題(復習・予習)]一般知能系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。確認テスト(国語・社会・数学)の復習。次時内容の予習。(3~5h)
12	問題集勉強の仕方(9)(一般知能 資料解釈) 国語 (ベストセラーなど)、社会 (世界遺産、伝統工芸品他)、数学 (図形問題)の定着と発展 [課題(復習・予習)]一般知能系の出題傾向と今後の学修方法について復習する。確認テスト(国語・数学・社会)の復習。次時内容の予習。(3~5h)
12	SPI対策 分類、概算、文章照合、基礎能力 [課題(復習・予習)]SPIについての理解を深める。確認テスト(国語・数学・社会)の復習。次時内容の予習。(3~5h)
13	SPI対策 正誤の照合、表の読み取り、置換、計算、漢字の正誤 [課題(復習・予習)]SPIについての課題プリントで復習する。筆記試験の勉強。(3~5h)
15	筆記試験と全体のまとめ(第1回~14回までの学修の確認と定着) [課題(復習)]学んだ内容の総合的な復習を行う。(3~5h)
時間外での学修	学修した問題や課題とされた問題を確実に自主学習し、内容の定着を図ってください。授業以外での学修の取組が将来の進路実現を可能にします。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]
受講学生へのメッセージ	音楽をライフワークにできる職業への就職をめざして、就職試験全般を想定した学修を行います。具体的な問題や論作文の課題をこなしていく中で、基本的な知識の修得と学修習慣の定着を図ります。

【3S8B201】ヴォーカル		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	五島 由美子					
資格・制限等	P・Or・MTコース必修					
資格等	音療選択(音楽)					
実務家教員	声楽家48年、声楽指導45年、合唱指導31年					
授業方法	グループレッスンを中心として、お互いの声を聞きながら学びます。					
到達目標	知識・理解	歌唱する上での、作曲家の意図・言葉の表現が出来る。				
	思考・判断・表現	言葉の由来を理解した上で、音楽の理解が出来る。				
	技能	各自の歌唱技術の問題点を速やかに理解できる。				
	関心・意欲・態度	各自の課題に関心を持ち、積極的に努力して学習に取り組むことが出来る。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	歌唱を通して音楽の表現力を身に着ける授業です。 前期はイタリア歌曲を取り上げます。正しい発声を身に付けて、表現力を深めていきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	試験	10	20	20	15	65
	発表・レポート	5	5	5	5	20
	学修評価の自己評価	5	5	-	-	10
	受講態度(学習や提出物)	-	-	-	5	5
合計(点)	20	30	25	25	100	
評価の特記事項	ICT活用					
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして個人個人の発声の理解を確認します。					
テキスト	『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『イタリア歌曲集(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 手持ち可					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス ヴォーカルの授業への質問・要望等に応えます。又、発声の仕組み、声の出し方、ブレスの仕方等を学びます。 (課題) 学んだ発声について毎日発声練習をし、声の出し方と体の結びつきを訓練してください。(1h)					
2	イタリア歌曲1 イタリア語を学ぶ。 Sebben crudele コンコーネ1 (課題) イタリア語に慣れる。読む力を付ける事。(1h)					
3	イタリア歌曲2 母音と子音を学ぶ。 Sebben crudele コンコーネ1 (課題) 母音唱をする事により響きの位置を確認する。(1h)					
4	イタリア歌曲3 ハミングと母音を学ぶ。 Sebben crudele コンコーネ1 (課題) 各自の課題点を整理する。(1h)					
5	イタリア歌曲4 口の中の開け方を学ぶ。 Caro mio ben コンコーネ2 (課題) 鏡を見て口の中の開け方と出す音のつながりを知る。(1h)					
6	イタリア歌曲5 高音・中音・低音の響きを統一する。 Caro mio ben コンコーネ2					
7	イタリア歌曲6 母音唱とリップロールの仕方。 Caro mio ben コンコーネ2 (課題) 学習成果発表後の課題を克服する。(1h)					
8	イタリア歌曲7 子音の扱いについて学ぶ。 Nel cor piu non mi sento コンコーネ3 (課題) 子音の練習。(1h)					
9	イタリア歌曲8 装飾音の扱いについて。 Nel cor piu non mi sento コンコーネ3 (課題) 装飾音の練習。(1h)					
10	イタリア歌曲9 休符・アクセントについて。 Nel cor piu non mi sento コンコーネ3 (課題) 学習成果発表後の課題を克服する。(1h)					
11	イタリア歌曲10 音程に気を付ける。 Per la gloria コンコーネ4 (課題) 跳躍音程の練習をする。(1h)					
12	イタリア歌曲11 舌の位置と訓練。 Per la gloria コンコーネ4 (課題) 巻き舌 舌の位置を鏡を見ながら練習する。(1h)					
13	イタリア歌曲12 Per la gloria コンコーネ4 (課題) 学習成果発表後の課題を克服する。(1h)					
14	イタリア歌曲13 各自選曲した曲をレッスンする。個人レッスン コンコーネ5 (課題) 個人の課題と問題点を見つけ出し練習する。(1h)					
15	イタリア歌曲14 各自の問題点を克服する。試演会 コンコーネ5 (課題) 前期試験に向けて各自の課題を整理する。(1h)					
時間外での学修	毎日発声の練習をして下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	身体表現の授業ですから、健康維持に努めて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。					

【3S8S202】ヴォーカル		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MTコース必修						
資格等	音療選択(音楽)						
実務家教員	声楽家48年、声楽指導45年、合唱指導31年						
授業方法	グルーブレッスンの中で相互に他声を聴き合い、意見交換をする。						
到達目標	知識・理解	音楽の基礎的知識や、曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得することが出来る。					
	思考・判断・表現	音楽演奏や教育を行うにあたって、必要な理論を適切に理解し、相手の理解に応じて伝えることが出来る。					
	技能	音楽の専門家として情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。					
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションをとろうとする意欲がある。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	歌唱を通して、音楽の表現力を高める授業です。後期は日本歌曲とドイツ歌曲を取り上げます。それぞれの作曲家の意図をくみ取り、言葉と音楽の関係を交えて進めていきます。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	試験		10	20	20	15	65
	発表・レポート		5	5	5	5	20
	学習成果の自己評価		5	5	-	-	10
	受講態度(学修や提出物)		-	-	-	5	5
	合計(点)		20	30	25	25	100
評価の特記事項	ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	グルーブワーク						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして各項目終了時に個別に確認し指示をします。						
テキスト	『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 『イタリア歌曲集(中声用)』全音楽譜出版社 手持ち可						
参考書・教材	なし						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	日本歌曲1	浜辺の歌	イタリア歌曲との相違点を知る。	コンコーネ6			
	(課題)	イタリア歌曲で学んだ発声を基本とした、日本語の発声を勉強する。(1h)					
2	日本歌曲2	浜辺の歌	日本語の発音について学ぶ。	コンコーネ6			
	(課題)	口の中を意識して日本語を読む練習をする。(1h)					
3	日本歌曲3	浜辺の歌	日本語の子音について学ぶ。	コンコーネ6			
	(課題)	浜辺の歌を暗譜で歌えるように歌いこむ。(1h)					
4	日本歌曲4	早春賦	曲の流れをつかむ為に、母音唱で練習する。(1h)	コンコーネ7			
	(課題)						
5	日本歌曲5	早春賦	言葉の意味を理解して歌う。(1h)	コンコーネ7			
	(課題)						
6	日本歌曲6	早春賦	早春賦を暗譜で歌えるように歌いこむ。(1h)	コンコーネ7			
	(課題)						
7	日本歌曲のまとめ	各自選曲した曲を発表し、感想を述べる。	表現力を身に着けるべく歌いこむこと。(1h)	コンコーネ8			
	(課題)						
8	ドイツ歌曲1	野ばら	音楽の流れを感じて歌う。	コンコーネ10			
	(課題)	ドイツ語に慣れる。(1h)					
9	ドイツ歌曲2	野ばら	ドイツ語の歌詞の意味を理解して歌う。	コンコーネ10			
	(課題)	ドイツ語の歌詞を何度も読む。(1h)					
10	ドイツ歌曲3	野ばら	学習成果発表	コンコーネ10			
	(課題)	相互に成果の発表をまとめて、次の目標を見つける。(1h)					
11	ドイツ歌曲4	歌の翼に	音楽の流れを感じて歌う。	コンコーネ11			
	(課題)	ピアノの流れるようなメロディーに沿って歌う。(1h)					
12	ドイツ歌曲5	歌の翼に	言葉の意味を理解する。	コンコーネ11			
	(課題)	ドイツ語独自の発音、イントネーションに注意して歌う。(1h)					
13	ドイツ歌曲6	歌の翼に	学習成果発表	コンコーネ12			
	(課題)	相互に成果の結果を踏まえ、次の試演会に向けて。(1h)					
14	ドイツ歌曲7	各自選曲した曲を個人レッスンする。	各自の課題を速やかに見出し、試演会に向けて。(1h)	コンコーネ12			
	(課題)						
15	ドイツ歌曲8	1年間勉強してきた成果を発表し、試験に向けて。	各自の成果を発表する試演会での課題を通して試験に向けて。(1h)	コンコーネ12			
	(課題)						
時間外での学修	身体を鍛えて発声練習を毎日行うこと。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	身体表現の授業ですので、健康維持に努めて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。						

【3S8B205】ソルフェージュ		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	五島 由美子					
資格・制限等	P・Or・MTコース必修					
資格等	音療選択(音楽)					
実務家教員	声楽家48年、声楽指導45年、合唱指導31年					
授業方法	実技・実践を中心として基礎的な音楽知識を習得していきます。					
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。				
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。				
	技能	音楽に専門家としての情報収集能力を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーションの能力がある。				
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	音楽を的確に表現する為の、音楽の基礎能力の育成・視覚・聴覚訓練をしていきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	発表	20	-	10	10	40
	筆記試験	30	10	-	-	40
	自己評価	5	5	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	55	15	10	20	100
評価の特記事項	ICT活用					
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして項目別確認テストの後、返却時に解答の解説をします。					
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ソルフェージュについて(授業ガイダンス、ソルフェージュの理解と確認) [課題(復習)] これまでに学んだことのあるソルフェージュについての質疑応答。			コンコーネ1 (1~2h)		
2	コールユーブンゲン No.2 4 6 聴音 [課題(準備)] コールユーブンゲン No.7 9 11の予習。(1~2h)			コンコーネ2		
3	コールユーブンゲン No.7 9 11 聴音 [課題] コールユーブンゲン No.13 15 17の予習とNo.7 9 11の復習。(1~2h)			コンコーネ3		
4	コールユーブンゲン No.13 15 17 聴音 [課題] コールユーブンゲン No.18の予習とNo.13 15 17の復習。(1~2h)			コンコーネ4		
5	コールユーブンゲン No.18 聴音 到達度確認テスト No.18まで [課題] コールユーブンゲン No.19 20の予習とNo.18の復習。(1~2h)			コンコーネ5		
6	コールユーブンゲン No.19 20 聴音 新曲第1章 No.1~No.5 [課題] コールユーブンゲン No.23の予習と新曲視唱の復習。(1~2h)			コンコーネ6		
7	コールユーブンゲン No.23 聴音 新曲第1章 No.11~No.15 [課題] コールユーブンゲン No.24の予習と既習曲の復習。(1~2h)			コンコーネ7		
8	コールユーブンゲン No.24 聴音 新曲第1章 No.21~No.25 [課題] コールユーブンゲン No.25の予習と既習曲の復習。(1~2h)			コンコーネ8		
9	コールユーブンゲン No.25 聴音 新曲第1章 No.31~No.35 [課題] コールユーブンゲン No.26の予習と既習曲の復習。(1~2h)			コンコーネ9		
10	コールユーブンゲン No.19~25の到達度確認テスト 新曲第1章 No.41~No.45 [課題] コールユーブンゲン No.26の予習と既習曲の復習。(1~2h)			コンコーネ10		
11	コールユーブンゲン No.26 聴音 新曲第1章 No.111~No.115 [課題] コールユーブンゲン No.27の予習と既習曲の復習。(1~2h)			コンコーネ11		
12	コールユーブンゲン No.27 聴音 新曲第1章 No.121~No.125 [課題] コールユーブンゲン No.28の予習と既習曲の復習。(1~2h)			コンコーネ12		
13	コールユーブンゲン No.28 聴音 新曲第1章 No.131~No.135 [課題] コールユーブンゲン No.29の予習と既習曲の復習。(1~2h)			コンコーネ13		
14	コールユーブンゲン No.29 聴音 新曲第1章 No.141~No.145 [課題] 既習曲の復習。(1~2h)			コンコーネ14		
15	コールユーブンゲン No.29 までの確認テスト。 新曲第1章 No.151~No.155 [課題(復習)] 既習の演習課題を復習しておく。(1~2h)			コンコーネ15		
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 【この科目で求める望ましい授業外での総学習時間;15~30時間】					
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないように体調にも気を付けて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。					

【3S8S206】ソルフェージュ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MTコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	声楽家48年、声楽指導45年、合唱指導31年						
授業方法	実技・実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身に付けフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。					
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。					
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。					
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通してコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	1年前期で習得した音楽を、更なる的確に表現するための音楽的基礎能力の育成・聴覚訓練をしていきます。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	発表		20	-	10	10	40
	筆記試験		30	10	-	-	40
	自己評価		5	5	-	-	10
	受講意欲		-	-	-	10	10
	合計(点)		55	15	10	20	100
評価の特記事項	ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして項目別確認テストの後、各人に個別に指示をします。						
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成社 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	コンコーネNo.4 コールユーブンゲンNo.30 新曲視唱No.6~No.10 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.31を予習し、No.30の復習をする。 1h						
2	コンコーネNo.4 コールユーブンゲンNo.31 新曲視唱No.16~No.20 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.32を予習し、No.31の復習をする。 1h						
3	コンコーネNo.5 コールユーブンゲンNo.32 新曲視唱No.28~No.30 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.33を予習し、No.34の復習をする。 1h						
4	コンコーネNo.5 コールユーブンゲンNo.33 新曲視唱No.36~No.40 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.34 No.35を予習し、No.33の復習をする。 1h						
5	コンコーネNo.6 コールユーブンゲンNo.34 No.35 新曲視唱 第2章No.1~No.10 聴音 到達度確認テスト [課題] コールユーブンゲンNo.36を予習し、No.34 No.35の復習をする。 1h						
6	コンコーネNo.6 コールユーブンゲンNo.36 新曲視唱 第2章No.11~No.20 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.37を予習し、No.36の復習をする。 1h						
7	コンコーネNo.7 コールユーブンゲンNo.37 新曲視唱 第2章No.21~No.30 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.38を予習し、No.37の復習をする。 1h						
8	コンコーネNo.7 コールユーブンゲンNo.38 新曲視唱 第2章No.31~No.40 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.39を予習し、No.38の復習をする。 1h						
9	コンコーネNo.8 コールユーブンゲンNo.39 新曲視唱 第2章No.41~No.50 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.40 No.41を予習し、No.39の復習をする。 1h						
10	コンコーネNo.8 コールユーブンゲンNo.40 No.41 新曲視唱 第2章No.51~No.60 聴音 到達度確認テスト [課題] コールユーブンゲンNo.42を予習し、No.40 No.41の復習をする。 1h						
11	コンコーネNo.11 コールユーブンゲンNo.42 新曲視唱 第2章No.61~No.70 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.43を予習し、No.42の復習をする。 1h						
12	コンコーネNo.11 コールユーブンゲンNo.43 新曲視唱 第2章No.71~No.80 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.44を予習し、No.43の復習をする。 1h						
13	コンコーネNo.12 コールユーブンゲンNo.44 新曲視唱 第2章No.81~No.90 聴音 [課題] コールユーブンゲンNo.45を予習し、No.44の復習をする。 1h						
14	コンコーネNo.12 コールユーブンゲンNo.45 新曲視唱 第3章No.1~No.10 聴音 [課題] コールユーブンゲン1年のまとめ。既習曲の復習をする。 1h						
15	コンコーネNo.12 到達度確認テスト 新曲視唱 第3章No.11~No.20 聴音 [課題(復習)] コールユーブンゲン1年のまとめ。既習曲の復習をする。 1h						
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習を行うことがソルフェージュ上達を確実にものにします。 【この科目で求める望ましい授業外での総修学時間；15時間】						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。						

【3S8B109】音楽理論		音楽総合学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	小林 聡					
資格・制限等	MT・Wコース必修					
資格等	音療選択（音楽）					
実務家教員	大学非常勤講師・20年、演奏家・36年、作編曲家・23年					
授業方法	講義形式で進めます。GoogleFormを利用し小テストを行い反復学習によって理解度を深め、疑問点はICTなどを用いて解決していきます。講義によって得た知識により楽譜の分析を実施します。					
到達目標	知識・理解	音楽の基礎である楽典を学修し、記譜の決まり事を理解する。				
	思考・判断・表現	調判定など楽譜を読み取る力をつけ、楽曲の構造を分析できるようにする。				
	技能	移調の練習から様々な楽器の記譜法を身につける。				
	関心・意欲・態度	多くの楽譜に自ら取り組むことで対応力を高めると共に、楽譜を読む楽しさを味わう。				
備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	楽典の基礎、楽譜の書式、音符、リズムと拍子、音程、音階、和音、記号について学びます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	20	20	-	70
	小テスト	10	-	-	-	10
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	40	20	20	20	100
評価の特記事項	理解の達成度とそこへ到達しようという姿勢を重視します。					
ICT活用	Google Formを用いて小テストを行います。					
アクティブ・ラーニングの活用	楽典の理解を応用した楽譜の分析（スキルの育成、高次の思考）					
課題に対するフィードバック	事業時間外課題及び試験に対する質問にコメントします。					
テキスト	『『新装版「楽典」理論と実習』』石桁真礼生、末吉保雄、丸田昭三、飯田隆、金光威和雄、飯沼信義音楽之友社(2,145円)ISBN:9784276100008					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	音の種類、楽音の3要素、倍音、音律について学びます。 [課題(復習)]学んだことの復習：それぞれの用語をしっかりと覚えること、倍音を五線紙に書き出してみる。(4h)					
2	五線、音部記号、譜表、音名について学びます。 [課題(復習)]学んだことの復習：音部記号の音の高さと音名を覚えること。(4h)					
3	音符と休符の種類と長さ、連符、タイについて学びます。 [課題(復習)]学んだことの復習：音符と休符の種類を系統的に図に書いて把握すること。(4h)					
4	リズム、拍と拍子、拍子の記法、拍子に関する演奏上の注意について学びます。 [課題(復習)]学んだことの復習：様々な拍子記号を実際に五線に書きだす。(4h)					
5	強起と弱起、拍の種類、拍子の変化、シンコペーション、リズムに関する記譜上の注意について学びます。 [課題(復習)]学んだことの復習：強起と弱起それぞれの拍子を使いリズム譜を作る。(4h)					
6	音程：度数、完全・長・短等の種類、幹音どうしの2音によってできる音程、派生音を含む2音によってできる音程について学びます。 [課題(復習)]学んだことの復習：いくつかの調を選びその幹音どうしの2音の音程を書き出す。(4h)					
7	副音程・音程の転回・協和音程と不協和音程について学びます。 [課題(復習)]学んだことの復習：副音程・展開された音程・協和音程・不協和音程について例を書き出す。(4h)					
8	音階：長音階と短音階 [課題(復習)]学んだことの復習：長短24の音階を五線に書き出す。(4h)					
9	音階：調の相互関係、移調と転調 [課題(復習)]学んだことの復習：相互関係を表す図を書き写し理解する。(4h)					
10	音階：教会旋法、全音音階、民族的な音階 [課題(復習)]学んだことの復習：それぞれの音階を書き出しその構成音と名称を覚える。(4h)					
11	和音：三和音と七和音 [課題(復習)]各和音の構成音、展開形、その名称を表を用いて書き記す。(4h)					
12	和音：音階各音上の三和音・七和音 [課題(復習)]各調においてそれぞれの和音の響きを実際に弾いて確かめる。(4h)					
13	和音：和音の機能 [課題(復習)]様々な町においてTonic, Dominant, SubDominantそれぞれ書き記す。(4h)					
14	和音：主要三和音と副三和音 [課題(復習)]様々な調の音階を書きその上に三和音を重ねそれぞれの機能を書き記す。(4h)					
15	まとめ					
時間外での学修	授業内容を確認し復習の課題を行なってください。覚える事柄が多いので何度も繰り返し書き記すことによって確かな知識にしましょう。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	音楽において楽譜は作曲家が自分の思考を演奏者に伝える言葉です。この言葉の用法をしっかりと理解し曲の内容を的確に把握できる力を身につけましょう。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。					



【3S8S110】音楽理論		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	小林 聡						
資格・制限等	MT・Wコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	大学非常勤講師・20年、演奏家・36年、作編曲家・23年						
授業方法	講義形式で進めます。GoogleFormを利用し小テストを行い反復学習によって理解度を深め、疑問点はICTなどを用いて解決していきます。講義によって得た知識により楽譜の分析を実施します。						
到達目標	知識・理解	音楽の基礎である楽典を学修し、記譜の決まり事を理解する。音楽記号についての知識を深める。					
	思考・判断・表現	調判定など楽譜を読み取る力をつけ、楽曲の構造を分析できるようにする。					
	技能	移調の練習から様々な楽器の記譜法を身につける。					
	関心・意欲・態度	多くの楽譜に自ら取り組むことで対応力を高めると共に、楽譜を読む楽しさを知る。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	楽典の基礎、楽譜の書式、音符、リズムと拍子、音程、音階、和音、記号について学びます。音楽理論Iに引き続いての内容ですが、課題の実習とその解説を主とします。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	20	-	70
	小テスト		10	-	-	-	10
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項	理解の達成度とそこへ到達しようという姿勢を重視します。						
ICT活用	Google Formを用いて小テストを行います。						
アクティブ・ラーニングの活用	Google Formを用いて小テストを行います。						
課題に対するフィードバック	事業時間外課題及び試験に対する質問にコメントします。						
テキスト	『『新装版「楽典」理論と実習』』石桁真礼生、末吉保雄、丸田昭三、飯田隆、金光威和雄、飯沼信義 音楽之友社(2,145円) ISBN:9784276100008						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	速さ・強さに関する表示法、移調についての課題と復習 [課題(復習)]学んだことの復習:強さ、速さの記号をそれぞれの順番にならべて書き記し、用法を覚える。(4h)						
2	曲想に関する用語 [課題(復習)]学んだことの復習:記号とその意味を書き記す。(4h)						
3	奏法を指示する用語・記号 [課題(復習)]学んだことの復習:記号と奏法例を書き記し覚える。(4h)						
4	装飾音・装飾記号 [課題(復習)]学んだことの復習:装飾音と記号について奏法例を書き出し用法を覚える。(4h)						
5	総合小テスト第1回:移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
6	総合小テスト第2回移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
7	総合小テスト第3回移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
8	総合小テスト第4回移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
9	総合小テスト第5回移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
10	総合小テスト第6回移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
11	総合小テスト第7回移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
12	総合小テスト第8回移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
13	総合小テスト第9回移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
14	総合小テスト第10回移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
15	総合小テスト第11回移調、調判定、答え合わせと解説 [課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4h)						
時間外での学修	小テストで自分が理解していない事項を把握してひとつづつクリアしてください。移調、調判定は課題を実施することで作業自体に慣れ問題解決への道筋を作りましょう。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間:60時間】						
受講学生へのメッセージ	音楽理論IIでは得た知識をもとに楽譜に対し思考、判断する力を養います。最初は難しいと感じることも課題を行う過程で意識のハードルが下がってくることを目指して取り組んでください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。						

【3S8B111】音楽史		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。						
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。					
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。					
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。					
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	20	20	-	80
	ノートチェック		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項	曲の感想の描き方に、真摯な姿勢での取り組みが見られる場合は、評価に反映したいと思います。						
ICT活用	オープンチャットを活用し、授業中に関する曲を提示します。						
アクティブ・ラーニングの活用	レポートにて、各自、興味を抱いた作曲家について、調べて、見解をまとめて頂きます。						
課題に対するフィードバック	毎回、授業に関する曲を数曲提示しますので、聞いた感想をノートに書いて下さい。それを元に、更に理解を深められるように、意見交換していきます。						
テキスト	『西洋音楽史概説』門馬直美 春秋社(3,024円) ISBN:978-4393930014						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	古代、中世の音楽 [課題(準備)]音楽史の本を読んでみましょう。(3~5h)						
2	ルネサンス音楽 [課題(予習)]モンテベルディ、パレストリーナを聴いてみましょう。(3~5h)						
3	バロック音楽 [課題(予習)]ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルを聴いてみましょう。(3~5h)						
4	クラシック音楽 [課題(予習)]モーツァルトを聴いてみましょう。(3~5h)						
5	クラシック音楽 [課題(予習)]ベートーヴェンを聴いてみましょう。(3~5h)						
6	ロマン主義音楽 [課題]メンデルスゾーン、シューベルトを聴いてみましょう。(3~5h)						
7	ロマン主義音楽 [課題(予習)]シューマン、ショパンを聴いてみましょう。(3~5h)						
8	第1回レポート [課題(準備)]興味・関心を持った作曲家、曲、時代について、調べてまとめましょう。。(3~5h)						
9	ロマン主義音楽 [課題(予習)]リストを聴いてみましょう。(3~5h)						
10	新ロマン主義音楽 [課題(予習)]ヴァーグナー、ブラームスを聴いてみましょう。(3~5h)						
11	フランス音楽 [課題(予習)]ビゼー、サンサーンスを聴いてみましょう。(3~5h)						
12	イタリア音楽 [課題(予習)]ヴェルディ、プッチーニを聴いてみましょう。(3~5h)						
13	イギリス音楽 [課題(予習)]エルガー、ホルストを聴いてみましょう。(3~5h)						
14	ウィーン音楽 [課題(予習)]Jシュトラウスを聴いてみましょう。(3~5h)						
15	アメリカの音楽 [課題(予習)]フォスター、ガーシュウィンを聴いてみましょう。(3~5h)						
時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；60時間]						
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知ることが、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3S8S112】音楽史		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	P・Orコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。						
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。					
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。					
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。					
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	20	20	-	80
	ノートチェック		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項	曲の感想の描き方に、真摯な姿勢での取り組みが見られる場合は、評価に反映したいと思います。						
ICT活用	オープンチャットを活用し、授業中に関する曲を提示します。						
アクティブ・ラーニングの活用	レポートにて、各自、興味を抱いた作曲家について、調べて、見解をまとめて頂きます。						
課題に対するフィードバック	毎回、授業に関する曲を数曲提示しますので、聞いた感想をノートに書いて下さい。それを元に、更に理解を深められるように、意見交換していきます						
テキスト	『西洋音楽史概説』門馬 直美 春秋社(3,024円) ISBN:978-4393930014 「音楽史」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ロシアの音楽 [課題(予習)]ロシア5人組、ムソルグスキーの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
2	ロシアの音楽 [課題(予習)]チャイコフスキーの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
3	ノルウェー、フィンランドの民族主義音楽 [課題(予習)]グリーグ・シベリウスの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
4	チェコスロヴァキアの音楽 [課題(予習)]スメタナ、ドヴォルザークの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
5	スペインの音楽 [課題(予習)]アルベニス、グラナドスの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
6	民族主義音楽のまとめ [課題(予習)]お気に入りの曲を見つけて聴いてみおきましょう。(3~5h)						
7	第3回レポート [課題(準備)]ノートチェックもしますので、忘れないようにしましょう。(3~5h)						
8	近代・現代の音楽 [課題(予習)]ドビュッシー・ラヴェルの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
9	近代・現代の音楽 [課題(予習)]シェーンベルク、ストラヴィンスキーの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
10	近代・現代の音楽 [課題(予習)]プロコフィエフ、バルトークの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
11	近代・現代の音楽 [課題(予習)]ハチャトゥーリアンの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
12	近代・現代の音楽 [課題(予習)]バレフスキーの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
13	近代・現代の音楽 [課題(予習)]バルトークの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
14	日本の音楽 [課題(復習)]日本の音色にも、耳を傾けてみましょう。(3~5h)						
15	世界の音楽 [課題(復習)]インターネットを利用して、動画を見てみましょう。(3~5h)						
時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]						
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知ることが、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると、思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3S3B203】鍵盤楽器		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	特になし						
資格等	音療選択(音楽)						
実務家教員							
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンを行います。 レッスンの時間までは各自課題及び練習曲などの予習復習をして待ちます。						
到達目標	知識・理解	ピアノの演奏に必要な基礎的テクニックや音楽知識を習得することが出来る。					
	思考・判断・表現	演奏する楽曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。					
	技能	基礎的演奏技術の向上ができる。					
	関心・意欲・態度	各専門分野に役立てていけるよう、意欲的に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ ・ は、D P ・ 到達指標との結びつきの強さを示します。					
授業内容	基礎的な演奏技術や奏法を習得し、各々の目標に合わせて取り組みながら、演奏力・表現力を高めていきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の取り組み状況を含みます。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	曲の選曲、課題の取り組み等を受講生自ら選択し判断できるよう促します。						
課題に対するフィードバック	課題の学修成果に対するコメントは、レッスンの際に随時伝えます。						
テキスト	第1回目の授業(ガイダンス)で1人1人の進度に合わせた練習曲集等の楽譜を個々に選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 練習曲・自由曲(1)選曲 [課題(準備)]練習曲・自由曲を選曲・譜読み(1~1.5h)						
2	練習曲・自由曲(2)課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、譜読みが正しくできているか確認する(1~1.5h)						
3	練習曲・自由曲(3)課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、テクニックを向上させる(1~1.5h)						
4	練習曲・自由曲(4)課題の確認、部分練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、部分練習を十分に行う(1~1.5h)						
5	練習曲・自由曲(5)課題の確認、強弱 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、強弱をつける(1~1.5h)						
6	練習曲・自由曲(6)課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽語の意味など調べ曲想を付ける(1~1.5h)						
7	練習曲・自由曲(7)課題の確認、フレージング [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、フレーズの確認をする(1~1.5h)						
8	練習曲・自由曲(8)課題の確認、テンポの確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲にふさわしいテンポにする(1~1.5h)						
9	練習曲・自由曲(9)課題の確認、バランス [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、音のバランスを考える(1~1.5h)						
10	練習曲・自由曲(10)課題の確認、音色づくり [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽曲に合う音色をイメージして創り出す(1~1.5h)						
11	練習曲・自由曲(11)課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、豊かな音楽表現を身に付ける(1~1.5h)						
12	練習曲・自由曲(12)課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜する(1~1.5h)						
13	練習曲・自由曲(13)課題の確認、確実な暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜を確実にする(1~1.5h)						
14	練習曲・自由曲(14)課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲の流れを止めずに演奏できるようにする(1~1.5h)						
15	練習曲・自由曲(15)課題の確認、仕上げ [課題(復習)]レッスンの復習をし、何度も繰り返し練習する(1~1.5h)						
時間外での学修	レッスンで修得したことを改善できるように日々の積み重ねが大切であるとともに、様々な音楽に興味を持ち知識を得られるように心がけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：20時間】						
受講学生へのメッセージ	ピアノの演奏を通し各専門分野に役立てていけるよう、目標を持って取り組みましょう。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。						

【3S3S204】鍵盤楽器		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	特になし						
資格等	音療選択(音楽)						
実務家教員							
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンを行います。 レッスンの時間までは各自課題及び練習曲などの予習復習をして待ちます。						
到達目標	知識・理解	ピアノの演奏に必要な基礎的テクニックや音楽知識を習得することができる。					
	思考・判断・表現	演奏するにふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。					
	技能	基礎的演奏技術の向上ができる。					
	関心・意欲・態度	各専門分野に役立てていけるよう、意欲的に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ ・ は、D P ・到達指標との結びつきの強さを示します。					
授業内容	基礎的な演奏技術や奏法を習得し、各々の目標に合わせて取り組みながら、演奏力・表現力を高めていきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題の取り組み状況を含みます。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	曲の選曲、課題の取り組み等を受講生自ら選択し判断できるよう促します。						
課題に対するフィードバック	課題の学修成果に対するコメントは、レッスンの際に随時伝えます。						
テキスト	第1回目の授業(ガイダンス)で1人1人の進度に合わせた練習曲集等の楽譜を個々に選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	練習曲・自由曲(1)休暇中の課題見直し、新しい曲の選曲 [課題(準備)]休暇中の課題の確認、見直しをする(1~1.5h)						
2	練習曲・自由曲(2)課題の確認、譜読み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、譜読みを丁寧に行う(1~1.5h)						
3	練習曲・自由曲(3)課題の確認、片手奏・両手奏 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、片手奏を十分に行い両手奏にする(1~1.5h)						
4	練習曲・自由曲(4)課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、テクニックを向上させる(1~1.5h)						
5	練習曲・自由曲(5)部分練習・反復練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、部分練習や反復練習をする(1~1.5h)						
6	練習曲・自由曲(6)課題の確認、強弱 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、強弱を付ける(1~1.5h)						
7	練習曲・自由曲(7)課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲想を付ける(1~1.5h)						
8	練習曲・自由曲(8)課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする(1~1.5h)						
9	練習曲・自由曲(9)課題の確認、音色づくり [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽曲に合った音色づくりをする(1~1.5h)						
10	練習曲・自由曲(10)課題の確認、バランス [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、響きのバランスを考える(1~1.5h)						
11	練習曲・自由曲(11)課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜に取り組む(1~1.5h)						
12	練習曲・自由曲(12)課題の確認、確実な暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、確実に暗譜ができるように練習を積む(1~1.5h)						
13	練習曲・自由曲(13)課題の確認、楽譜の再確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜をより確実にするために楽譜の再確認をし曲の理解を深める(1~1.5h)						
14	練習曲・自由曲(14)課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、よく弾き込む(1~1.5h)						
15	練習曲・自由曲(15)課題の確認、仕上げ [課題(復習)]レッスンの復習をし、これまでに習得した演奏技術や表現力を活かした演奏ができるようにする(1~1.5h)						
時間外での学修	レッスンで修得したことを改善できるように日々の積み重ねが大切であるとともに、様々な音楽に興味を持ち知識を得られるように心がけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：20時間】						
受講学生へのメッセージ	ピアノの演奏を通し各専門分野に役立てていけるよう、目標を持って取り組みましょう。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。						

【3T7F201】スポーツ・レクリエーション		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	垣添 忠厚						
資格・制限等	特になし						
資格等	レク(音楽)						
実務家教員	垣添：特別支援学校教諭(18年)、小学校教諭(5年)、岐阜県キンボールスポーツ連盟副会長、レクリエーションインストラクター						
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、授業は主に体育館で実施します。						
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解し、実践することができる。					
	思考・判断・表現	保育者として、状況を判断し、主体的に活動することができる。					
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。					
	関心・意欲・態度	レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。					
備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。						
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的理解と指導法について学びます。10月1日(日)は、岐阜県レクリエーションフェスティバルin岐阜(岐阜県庁前さぶ清流広場)にスタッフとして参加する学外授業となります(詳細は授業時に説明します)。この科目は、レクリエーションインストラクター資格取得の必須科目です。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート		15	-	-	-	15
	自己評価		15	-	-	-	15
	発表		-	20	20	-	40
	受講態度		-	-	-	30	30
	合計(点)		30	20	20	30	100
評価の特記事項	レポート、自己評価は毎回のレポートを基に評価します。実技は、イベントスタッフの実践の様子、イベント企画の発表を参考に評価します。受講態度は、毎時間の取り組みを評価します。						
ICT活用	日本レクリエーション協会公式ホームページ「レクぼ」を活用しレクリエーションの展開モデルを参考とする。						
アクティブ・ラーニングの活用	レクリエーションイベントに参加することで、現場での実践力を身につけます。						
課題に対するフィードバック	ボランティア参加によるレポートを学生で共有します。						
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益社団法人 日本レクリエーション協会 公益社団法人 日本レクリエーション協会(1,980円)ISBN:978-4-931180-95-6 『レクリエーション支援の方法 楽しさをとおした心元気づくり 補助教材』公益社団法人 日本レクリエーション協会 公益財団法人 日本レクリエーション協会(880円)						
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス/理論(レク科目1)：楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気づくり ・レクリエーションインストラクターの役割 ・楽しさを通した心の元気づくりの理解 [課題(復習)]心の元気づくりに必要な要素をレポートにまとめる。(1h~2h)						
2	理論(レク科目2)：心の元気と地域のきずな及び学外実習の説明 ・対象者のこころの元気づくりの理解 [課題(復習)]学修した内容を振り返り、成果と課題をノートにまとめる。(1h~2h)						
3	理論(レク科目6)：リスクマネジメント ・参加者が安全に楽しく参加できるイベントのあり方について考える [課題(復習)]ボランティアの参加を通して、具体的な方法をレポートにまとめる。						
4	実技(レク科目4)：良好な集団づくりの方法1・アイスブレイキングの効果をも高める支援技術 [課題(予習)]アイスブレイキングの支援技術について理解し、レポートにまとめる。(1h~2h)						
5	実技(レク科目4)：良好な集団づくりの方法2・アイスブレイキングの目標設定 ・コミュニケーションワーク(個人ゲームから集団ゲームへ) [課題(予習)]集団ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。(1h~2h)						
6	実技(レク科目4)：自主的・主体的に楽しむ力を高める展開方法 ・アレンジの基本と応用 [課題(復習)]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。						
7	実技(レク科目5)：モデル・プログラムの習得1 ・レクリエーション支援のための集団ゲーム1 [課題(復習)]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。						
8	実技(レク科目5)イベント企画1(グループ作り、計画準備) ・自主的、主体的にみんなで楽しめるイベント(レクリエーション大会)を考え、計画する [課題(予習)]対象者に適したレクリエーションを提案できるよう考えをまとめる。(1h~2h)						
9	実技(レク科目5)イベント企画2(企画準備・内容確認) ・仲間と協力して、分かりやすく楽しく活動できる計画に沿った準備をする。 [課題(復習・準備)]企画の準備をし、ノートにまとめる(1h~2h)						
10	演習：イベント企画3 レクリエーション大会(発表前半)、まとめ、ノート(課題)の確認 [課題(復習)]クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
11	演習：イベント企画4 レクリエーション大会(発表後半)、まとめ、ノート(課題)の確認 [課題(復習)]クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
12	10/1 現場実習(レク科目7)：(学外実習)岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクリエーション体験コーナー(スタッフとして)1 12/12分補講 [課題(予習・準備)]自己の当日の日程や役割を理解し、持ち物等を準備しておく。(1h~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	10/1 現場実習(レク科目7)：(学外実習)岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクリエーション体験コーナー(スタッフとして)2 12/19分補講 [課題(復習)]学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)
14	10/1 実技(レク科目2)：心の元気と地域のきずな 現場での演習 1/9補講分 ・岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクリエーション体験コーナーに参加する方々とのコミュニケーションを通して [課題(復習)]学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)
15	10/1 実技(レク科目5)：モデル・プログラムの習得2 現場での演習 1/16補講分 ・レクリエーションフェスティバルのレクリエーションブース(集団ゲーム)を体験する。 [課題(復習)]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。
時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること(参加手続きが必要な場合があります)。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。オフィスアワーは研究室(H203:H号館2F)で毎週金曜日12:15~12:45です。

【3T7B109】音楽心理学		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MTコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年						
授業方法	演習を含む講義形式						
到達目標	知識・理解	音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけている。					
	思考・判断・表現	音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。					
	技能	音楽心理学で用いられる質問紙の点数計算ができる。					
	関心・意欲・態度	積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができる。					
	備考	・ ・ は、D P ・到達指標との結びつきの強さを示します。					
授業内容	音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法資格の取得にはこの授業が必修となっています。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	20	-	-	60
	課題提出		-	-	10	10	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		40	20	10	30	100
評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	授業の感想、課題提出をGoogleフォームを利用して行います。						
課題に対するフィードバック	授業内に取り入れる形で提出された高評価のレポートを紹介します。						
テキスト	授業内でプリントを配布する。						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音楽心理学とは 実験1：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、メンタルテンポについてまとめる（4H）						
2	メンタルテンポと好みのテンポの関連について 実験2：ゲシュタルト原理と音の群化について [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、ゲシュタルトについて理解する（4H）						
3	リズム知覚能力の発達 実験3：調の色彩的表象 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、色彩と音との印象の関係についてまとめる（4H）						
4	共感覚について 実験4：楽器の音色による色彩的表象（12色以上の色鉛筆を持参してください）集団活動、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音色と色の関係についてまとめる（4H）						
5	絶対音感と相対音感について 実験5：絶対音感テスト 音楽心理学の研究手法について（1）観察法（2）実験法（3）質問紙法 それぞれの特長と適した研究法について[課題（復習）]学んだ内容を復習し、心理学研究の手法について理解する。自分の持つ音感の特性について理解する（4H）						
6	音による感情伝達 実験6：打楽器による感情表現 集団活動、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、リズムの違いによる感情表現について理解する（4H）						
7	BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [課題（復習）]身近な環境にあるBGMについて調べレポートにまとめる（4H）						
8	音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [準備・課題]知っているCMソングについて調べレポートにまとめる（4H）						
9	音楽心理学で用いる心理尺度について AVSM、STAI 集団活動 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、心理尺度の計算について理解する（4H）						
10	音楽聴取に関する研究1：感情の神経・生理学的測定について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽に対する生理的反応について理解する（4H）						
11	音楽聴取に関する研究2：刺激要因を問題として [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する（4H）						
12	音楽聴取に関する研究3：聴取者間要因を問題として [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴取者の性格特性による感情反応の違いについて理解する（4H）						
13	演奏不安に関する研究について 討論、発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、演奏反応の克服のための方法についてまとめる（4H）						
14	最近のトピックス 脳研究と音楽認知 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、理解を深める（4H）						



内容	
実施回	授業内容・目標
15	テスト前の振り返り 【課題（復習）】学んだ内容を復習し、テストの準備をする（4H）
時間外での学修	プリントをみて学んだことを復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参加してください。 心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週火曜日の13：00～14：30です。

【3T7S105】教育原理		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	小椋 博文						
資格・制限等	特になし						
資格等	音療選択(音楽)、社会福祉主事(音楽)						
実務家教員	高等学校管理職・10年						
授業方法	講義を中心としますが、ペアワークやグループワークも取り入れながら進めます。知識を身に付けるだけでなく、教育や保育に対する自分の考え方の形成を目指して展開していきます。						
到達目標	知識・理解	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的、制度的または経営的事項について理解することができる。					
	思考・判断・表現	教育について学んだ様々な内容について、自分の考えをまとめることができる。					
	技能	他者の意見に傾聴し理解するとともに、他者の意見も踏まえて自分の考えや意見を伝えることができる。					
	関心・意欲・態度	教育・保育に対して、関心・意欲を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ ・ は、D P ・到達指標との結びつきの強さを示します。					
授業内容	教育という営みの基本原則などについて理解するとともに、今後学ぶ専門分野への道筋を明らかにすることを目的とし、教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性、教育の思想と歴史の変遷、教育の制度、教育の実践、生涯学習社会における教育の現状と課題等について理解することを目指します。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験		50	-	-	-	50
	課題提出		-	15	15	-	30
	受講態度		-	-	-	20	20
合計(点)		50	15	15	20	100	
評価の特記事項	評価の対象となるのは、定期試験、課題レポート(2回)、さらにワークシート及び授業への取組により受講態度を評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
I C T 活用							
アクティブラーニングの活用	ペアワーク、グループワーク						
課題に対するフィードバック	ワークシート(ファイル)は評価後返却します。						
テキスト	『【シリーズ知のゆりかご】 いまがわかる教育原理』西本 望 編 みらい(2,310円)ISBN:978-4-86015-450-9						
参考書・教材	『幼稚園教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年、『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	教育の意義 [課題(予習)]第1章(P14~P25)を通読する。[課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
2	教育の目的 [課題(予習)]第2章(P26~P37)を通読する。[課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
3	教育と児童福祉のつながり [課題(予習)]第3章(P38~P47)を通読する。[課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
4	人間形成と家庭・地域・社会 [課題(予習)]第4章(P48~P59)を通読する。[課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
5	近代教育成立の歴史とさまざまな国の教育思想家たち [課題(予習)]第5章(P60~P65)、第6章(P72~P83)、第8章(P100~P113)を通読する。[課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
6	日本の教育思想と歴史 [課題(予習)]第7章(P84~P99)を通読する。[課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
7	教育制度の基礎 [課題(予習)]第5章(P65~P68)を通読する。[課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
8	諸外国の教育制度 [課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
9	教育の方法 [課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
10	教育の内容/保育・教育実践の基礎理論 [課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
11	教育実践の多様な取り組み [課題(予習)]第12章(P160~P175)を通読する。[課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
12	教育実践の多様な取り組み [課題(復習)]最も興味を持った教育実践についてレポートを作成する。(2~4h)						
13	生涯学習社会と教育 [課題(予習)]第13章(P176~P189)を通読する。[課題(復習)]学びを振り返りまとめる。(2~4h)						
14	生涯学習社会と教育 [課題(復習)]『生涯学習の課題と施策』で学んだ中で最も興味を持った課題についてレポートを作成する。(2~4h)						
15	定期試験						

時間外での学修	講義の内容理解を深めるために、予習としてテキストを読んでください。また、授業で使用したワークシートを使って復習をしてください。また、レポート作成の際には、図書館の書籍やインターネット等を活用して情報収集してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	質問等のある人は授業後A304(A号館3F)へ気軽に訪ねてください。

【3T7S107】発達心理学		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	茂木 七香						
資格・制限等	特になし						
資格等	音療選択(音楽)						
実務家教員	病院臨床心理士6年、学生相談室臨床心理士11年						
授業方法	基本的には講義形式で進めます。授業の内容に応じて、課題に取り組む、自分自身について振り返って記述する、グループワークに参加するなど、能動的な学び(アクティブラーニング)を前提とした方法も取り入れます。						
到達目標	知識・理解	全ての年齢の人を「対象」として捉え、その人の背景にある発達段階や発達課題に関する基礎的な知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	目の前の対象の行為や表出を相手の発達段階や理解度を考慮して多角的に分析し、判断する視点を持つことができる。					
	技能	対象を理解し、現在の発達段階の特性に合ったコミュニケーションを行うための技能を身につける。					
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自らの学びを深め、自己理解や他者理解に努める。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	生まれてから現在まであなたの心と身体は様々な面で発達してきましたが、この後はどうなるのでしょうか? 「発達」というと赤ちゃんから大人になるまでの期間がクローズアップされがちですが、その後も人は死ぬまで発達します。この授業では人を「生涯発達心理学」の視点で捉え、各発達段階の特徴や個体としての変化、他者や社会との関わりなどを心理面を中心に学びます。今まで過ごしてきた発達段階(胎児期~青年期)については自分自身を振り返りながら、そしてこの後のまだ経験していない発達段階(成人期~老年期)から人生の終わりまでについては身近な人を手掛かりにしながら人の発達を概観します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	授業時間内課題		15	10	-	5	30
	授業時間外課題		10	10	-	10	30
	ミニレポート		-	-	5	-	5
	最終レポート		5	5	10	-	20
	受講態度		-	-	-	15	15
合計(点)		30	25	15	30	100	
評価の特記事項	授業時間内課題: 授業中に記入し提出するワークシートやミニツッパーパー 授業時間外課題: 時間外に取り組む次回授業で提出する課題 レポート: ルーブリック(評価基準)とともに課題内容を提示						
ICT活用	学修内容の理解度確認や受講生間の意見交流のためにクラウドサービスsli.doやGoogleフォームなどを使用します。						
アクティブラーニングの活用	sli.doによる発言、グループワーク、意見交流など。						
課題に対するフィードバック	ミニツッパーパー、課題やレポートへのコメントを返します。						
テキスト	『ガイドライン「生涯発達心理学」』二宮克美・大野裕明・宮沢秀次編 ナカニシヤ出版(2,000円) ISBN:978-4779506819						
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要項 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 補足資料を授業で配付します。その他、参考図書や関連動画などは授業中に適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	はじめに(シラバス説明、文章の書き方、Slidoの使い方) 第1章 生涯発達心理学の基礎 [課題(復習)]教科書第1章(P1~P12) 授業で指定する課題(2~4h)						
2	第2章 発達研究の方法 第3章 胎児期 [課題(復習)]教科書第2章(P13~P38) 授業で指定する課題(2~4h)						
3	第3章 乳児期 その [課題(復習)]教科書第3章(P39~P48) ミニレポート課題(4~6h)						
4	小レポートを使った反転授業 [課題(復習)]小レポート課題の書き直し(2~4h)						
5	第3章 乳児期 その [課題(復習)]教科書第3章(P39~P48) 授業で指定する課題(2~4h)						
6	第4章 幼児期 [課題(復習)]教科書第4章(P49~62)(2~4h)						
7	第5章 児童期(小学生の時期) [課題(復習)]教科書第5章(P63~P80)(2~4h)						
8	図書館活用授業 子どもの発達を絵本から学ぶ [課題(復習)]自分の選んだ絵本についてまとめる(2~4h)						
9	第6章 青年期前期(中学生の時期) [課題(復習)]教科書第6章(P81~P94)(2~4h)						
10	第7章 青年期中期(高校生の時期) [課題(復習)]教科書第7章(P95~P108)(2~4h)						
11	第8章 青年期後期(大学生・有職青年) [課題(復習)]教科書第8章(P109~P124)(2~4h)						
12	第9章 成人期前期(25才~45才) [課題(復習)]教科書第9章(P125~P142)(2~4h)						
13	第10章 成人期中期(中年期、45才~65才) [課題(復習)]教科書第10章(P143~P154)(2~4h)						
14	第11章 成人期後期(老年期、65才~) [課題(復習)]教科書第11章(P155~P170)(2~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	まとめ レポート作成の準備 レポート課題交流 【課題(復習)】最終レポートの作成(4~6h)
時間外での学修	毎回の授業時間外課題や小レポートにしっかり取り組んでください。次回授業で用いることもあります(反転授業)。日常生活では、あなたも周りの人もこれまでに様々な面で発達し今ここに居て、この瞬間にもまだ発達しているのだということ意識し、世の中を新たな視点で捉え直してみてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	発達心理学はあなたが今まさに生きている人生の過程についての学問です。当事者として楽しむ視点と学問として学ぶ視点の両方を持って受講すると、より深く学ぶことができます。 オフィスアワー：金曜日 12時10分～13時 (A306研究室)

【3T7S104】子どもの保健		音楽総合学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	遠渡 絹代・浅井 佳士					
資格・制限等	特になし					
資格等	音療選択（音楽）					
実務家教員	遠渡：病院看護師5年以上 浅井：病院看護師5年以上					
授業方法	テキストと配布資料等の教材を用いた講義を中心に進めていきます。					
到達目標	知識・理解	子どもの成長・発達、母子保健活動と施策、子どもの病気について、基本的な知識を理解できる				
	思考・判断・表現	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策の関連性を考え、子どもの健康を守るための取り組みと課題について考えを述べるができる				
	技能	関連する資料から子どもの保健に関する現状や課題について説明できる				
	関心・意欲・態度	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策について関心を持ち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる				
	備考	○ の記号は、DP・到達目標と結びつきの強さを示しています。				
授業内容	子どもの保健は、子どもの心と体の健康について考え、子どもの健康を守り、健やかな育ちを支えることについて学科目です。取り巻く環境からの影響を受けながら成長する子どもたちの特徴を理解するとともに、子どもの身体的成長や機能的発達、母子保健活動と施策、子どもと病気について学びます。					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	小テスト	65	25	-	-	90
	レポート	-	-	5	5	10
	合計(点)	65	25	5	5	100
評価の特記事項	教科書および講義内容を中心に知識の修得度の小テストまたはレポートで評価する					
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	講義の中で双方向のディスカッションを行う。					
課題に対するフィードバック	小テストまたはレポートは、次回の授業でフィードバックします					
テキスト	『新基本保育シリーズ「子どもの保健」』松田博雄、金森三枝 中央法規(2,200円)					
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1 浅井	ガイダンス、子どもの健康と保育（子どもとは、大人とは、養護と教育、保育における活動の場） 【課題（予習）】テキスト第1講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
2 浅井	子どもの健康概念と健康指標 【課題（予習）】テキスト第2講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
3 浅井	子どもの健康と母子保施策 【課題（予習）】テキスト第3講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
4 浅井	地域保健活動と児童虐待の防止 【課題（予習）】テキスト第4講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
5 浅井	子どもの成長と発達 【課題（予習）】テキスト第5講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
6 浅井	生理機能の発達と保健 【課題（予習）】テキスト第1講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
7 浅井	健康状態の観察、子どもによくみられる症状 【課題（予習）】テキスト第7講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
8 浅井	発育・発達 【課題（予習）】テキスト第8講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
9 浅井	子どもと病気（子どもの病気の理解、病気が子どもと家族に及ぼす影響） 【課題（予習）】テキスト第9講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
10 遠渡	新生児の病気、先天性の病気の子どものと家族への対応 【課題（予習）】テキスト第10講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
11 遠渡	循環器、呼吸器、消化器系の疾患をもつ子どもと家族への対応 【課題（予習）】テキスト第11講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
12 遠渡	ネフローゼ症候群、糖尿病の子どものと家族への対応 【課題（予習）】テキスト第12講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
13 遠渡	脳性麻痺、てんかんの子どもと家族への対応 【課題（予習）】テキスト第13講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
14 遠渡	ウイルス性感染症（麻疹、風疹、水痘、耳下腺炎）の子どもと家族への対応 【課題（予習）】テキスト第14講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
15 浅井	病気の予防と予防接種 【課題（予習）】テキスト第15講を通読する（2h）【課題（復習）】学びを振り返りまとめる（2h）					
時間外での学修	毎回の授業時間外課題にしっかりと取り組んでください。そして理解につなげましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	日頃から子どもに関するニュースや出来事に関心を持ち、日常生活で接する子どもの様子を意図的に観察して下さい。オフィスアワーは担当教員が授業で説明します。					

【3T7B210】音楽療法演習		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	日比 あけみ					
資格・制限等	MTコース必修					
資格等	音療選択（音楽）					
実務家教員	福祉および医療現場にて音楽療法実践19年					
授業方法	学内での演習、発表。実践形式で行います。					
到達目標	知識・理解	対象者理解、アセスメントができる。				
	思考・判断・表現	音楽の使い方が理解できる。				
	技能	音楽活動の計画・実践ができる。				
	関心・意欲・態度	模擬セッションで各役割を担当できる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	対象者に合わせた音楽活動の計画・実践・振り返りを模擬実践にて行います。実際の現場に立つ前に、基礎的な実践方法を身につけます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実践発表	10	10	20	10	50
	受講態度	-	10	-	10	20
	レポート	-	-	10	10	20
	期末試験	10	-	-	-	10
合計(点)	20	20	30	30	100	
評価の特記事項	ICT活用					
アクティブ・ラーニングの活用	障がい者や高齢者の日常生活における情報収集					
課題に対するフィードバック	課題やレポートにコメントを返します。					
テキスト						
参考書・教材	資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション（年間計画・課題の確認） [課題（準備）]目標設定1（1～3h）					
2	グループ発表準備 [課題（準備）]計画、役割分担、練習（1～3h）					
3	グループ発表 [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
4	グループ発表 [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
5	グループ発表 [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
6	グループ発表 [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
7	グループ発表 [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
8	グループ発表評価、個人発表準備 [課題（準備）]自己評価、目標設定2、計画、練習（1～3h）					
9	個人発表 [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
10	個人発表 [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
11	個人発表 [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
12	個人発表 [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
13	個人発表 [課題（準備・復習）]計画、実践、振り返り（1～3h）					
14	個人発表評価 [課題（準備・復習）]自己評価、目標設定3（1～3h）					
15	演習のまとめ [課題（準備）]期末試験の取り組み（1～3h）					
時間外での学修	模擬実践を行うにあたり、授業外での準備は必須です。使用曲に関する調査や練習は、事前に各自で進めてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	どのようにしたら相手と自分との関係作りがうまくいくのか、日常生活の中からも気付きを見つけてください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。					

【3T7B113】音楽療法・基礎		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MTコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年						
授業方法	講義形式ですが授業の一部で演習活動も含まれます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。					
	思考・判断・表現	ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。 対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。					
	技能	音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。					
	関心・意欲・態度	意欲的に発表する。他グループの発表について自分の意見を述べることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶこと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨床的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	30	-	-	70
	発表		-	10	10	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 課題の提出及び発表がない学生は期末試験の受験資格がありません。						
ICT活用							
アクティブラーニングの活用	課題や感想をGoogle Formで提出します。						
課題に対するフィードバック	よいレポートがあれば授業で取り上げます。						
テキスト	『標準 音楽療法入門 下 実践編』日野原 重明（監修）、篠田 知璋（編集）、加藤 美知子（編集） 春秋社(3,520円) ISBN:4393934482						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し音楽療法の手順について理解する（4H）						
2	アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習、レポート提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、ランニングアセスメントの役割について理解する（4H）						
3	行動観察について：アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、アセスメントの種類について理解する（4H）						
4	音楽活動の記録について：客観的な記述方法について。反応のあった音楽、視線、セラピストとのかかわりなどについて主観を交えずに描写することができる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、客観的な記述について理解する（4H）						
5	音楽活動やセラピストの働きかけが対象者にどのように受け止められたか、対象者の感情を押し量って記述し、次回からのセッションの活動で何を言い、どこを変えなければならないか自分の考えを記述できる。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、主観的な記述と客観的な記述を分けて記述する（4H）						
6	目標設定について：対象者の分野別に異なる目標があることを知る。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、分野別の目標と活動内容についてレポートを作成する（4H）						
7	長期目標と短期目標について：それぞれの目標の違いを知り、短期目標の立て方を学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、長期目標に対応した短期目標を含む音楽活動を考える（4H）						
8	目標に応じた音楽活動の計画1：「動きを促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽活動の発表に向けて練習する（4H）						
9	目標に応じた音楽活動の計画2：「社会性を促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、社会性と音楽活動の関連について理解する（4H）						
10	目標に応じた音楽活動の計画3：「コミュニケーションを促す音楽活動」音楽活動を計画する。活動を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、コミュニケーション能力と音楽活動の関連について理解する（4H）						
11	事例から目標と活動を設定する演習1：児童 児童の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、児童の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
12	事例から目標と活動を設定する演習2：成人 成人の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、成人の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
13	事例から目標と活動を設定する演習3：高齢者 高齢者の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、高齢者の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						



内容	
実施回	授業内容・目標
14	この授業のレポート課題内容を説明する。 【課題（復習）】レポート課題に取り組む（4H）
15	レポート課題の作成 レポート課題を作成、完成させる。 【課題（復習）】学んだ内容の復習（4H）
時間外での学修	教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。 課題の提出状況が評価に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週火曜日の13：00～14：30です。

【3T7B216】音楽療法実践		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	菅田 文子					
資格・制限等	MTコース必修					
資格等	音療選択（音楽）					
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年					
授業方法	学内の演習。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。					
到達目標	知識・理解	簡単な和音奏の編曲ができる。簡単な打楽器の編曲ができる。				
	思考・判断・表現	施設における音楽活動を適切に振り返り記録することができる。				
	技能	ギターオープンコードを用いて弾き歌いができる。				
	関心・意欲・態度	時間外での自習を意欲的に行い、課題を発表できる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	音楽療法の現場への見学参加を主に行い、現場での適切な行動を学ぶ。ギターのオープンコードを学び、弾き歌いができるようにする。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	レポート	-	40	-	-	40
	実技試験	-	-	40	-	40
	発表（グループ発表含む）	10	-	-	5	15
	受講態度	-	-	-	5	5
合計(点)	10	40	40	10	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。					
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	反転授業により事前にビデオ視聴を行い授業に臨む（ギターコードの予習）。					
課題に対するフィードバック	レポートのコメントを次の授業時に返します。					
テキスト						
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。ギターはアコースティックギター（スチール弦）をピックで弾く形が望ましいので購入を検討するならば参考にしてください。学内専用（学外持ち出し不可）のギターで練習することが可能です。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題6曲） [課題（復習）]残りの課題5曲の練習（1H）					
2	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題5曲） [課題（復習）]残りの課題6曲の練習（1H）					
3	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表（課題6曲） [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）					
4	ミュージックベルのアンサンブル（長調の - - -） [課題（復習）]長調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。（1H）					
5	ミュージックベルのアンサンブル（短調の - - -） 宿題の発表。1人でグループを指揮する。わかりやすい合図の出し方を学ぶ。[課題（復習）]短調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。実習施設について調べる（1H）					
6	簡単なリズム楽器によるアンサンブル 2つのグループに分け、小物楽器のアンサンブルを行う。 [課題（復習）]自分で1曲を選び小物楽器アンサンブルのための譜面を作成する（1H）					
7	ギター各部の名称、メンテナンスについて ダイアグラムの読み方、チューニングとオープンコード Em、E [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、A、A7、D、D7コードの予習（1H）					
8	オープンコード A、A7、D、D7 [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、G、G7コードの予習（1H）					
9	オープンコード G、G7 [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、C、C7コードの予習（1H）					
10	オープンコード C、C7 [課題（復習）]学んだ内容の復習、課題曲の練習、Fコードの予習（1H）					
11	オープンコード F / アルペジオ [課題（復習）]学んだ内容の復習、試験課題曲の選定（1H）					
12	試験の準備 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）]学んだ内容の復習、ゆっくりと止まらずに演奏できるようにする（1H）					
13	試験の準備 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）]学んだ内容の復習、テンポを上げて演奏できるようにする（1H）					
14	試験の準備 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題（復習）]学んだ内容の復習、弾き歌いのために声と演奏のバランスに気をつける（1H）					
15	実技試験（ギター弾き歌い）後期課題の説明 [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）					
時間外での学修	アンサンブルの発表はグループで行いますので、協調性を持って課題に取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	ギター（クラシック、フォークどちらでも可）は各自用意してください。学校のギターは学内でのみの練習に貸し出しします。オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週火曜日の13：00～14：30です。					

【3T7S217】音楽療法実践		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MTコース必修						
資格等	音療選択（音楽）						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年						
授業方法	学内の演習と学外における実践。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	対象者グループの目標に沿った音楽活動を計画することができる。					
	思考・判断・表現	グループに分かれて音楽療法活動を計画、実践、記録を取ることができる。					
	技能	高齢者と児童の現場でグループ音楽活動を実施することができる。					
	関心・意欲・態度	それぞれの施設でふさわしい振る舞いをする事ができる。グループ内で共同作業ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	福祉施設におけるボランティア活動を通じて対象者への接し方や適切な行動を身につけることを目標とします。人前に出て話すこと、指導することにも慣れることができるように、役割を交代で分担します。グループ内で共同作業を行う上でのコミュニケーション能力を高めることも目的としています。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		-	30	-	-	30
	受講態度		-	-	20	20	40
	発表（グループ発表含む）		10	-	10	10	30
	合計(点)		10	30	30	30	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は最終試験の受験資格がありません。施設実習に3回出ますが2回以上欠席した学生、実習レポートの提出のない学生は最終試験の受験資格がありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	課題の提出をGoogle Formで行います。必要に応じて反転授業（実技の事前学習）を行います。						
課題に対するフィードバック	レポートについてのコメントを授業内で行います。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 高齢者を対象とした音楽療法セッション1：対象者の説明、施設の概要など。対象者にあった選曲を行う。 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動で使用する高齢者に向けた曲の譜面を準備する（1H）						
2	高齢者を対象とした音楽療法セッション2：活動計画 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の高齢者に向けた曲を練習する（1H）						
3	高齢者を対象とした音楽療法セッション3：活動の準備 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、高齢者対象の目標設定に沿った提示を練習する（1H）						
4	高齢者を対象とした音楽療法セッション4：リハーサル [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の説明や流れを確認する。高齢者施設での活動の留意点を復習する（1H）						
5	高齢者を対象とした音楽療法セッション5：実践 [課題（復習）]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。高齢者への働きかけで気をつけた点についてふりかえる（1H）						
6	先週の振り返り クリスマスコンサートのレパートリー1 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲の譜面を準備する（1H）						
7	クリスマスコンサートのレパートリー2 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲を練習する（1H）						
8	障害者を対象とした音楽活動準備 [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者を対象とした目標設定に沿った提示を練習する（1H）						
9	障害者施設に向いての音楽活動ボランティア1 [課題（復習）]実践記録の記入、障害者に対する接し方、働きかけについて記録						
10	先週の振り返り、記録の提出、活動計画の作成 [課題（復習）]学んだ内容の復習、今回の活動の反省点を踏まえた活動計画の作成（1H）						
11	障害者施設へのボランティア活動リハーサル [課題（復習）]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者に対する音楽療法の目標設定に沿った提示方法について各自で練習する（1H）						
12	障害者施設へのボランティア活動2 [課題（復習）]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。表情、視線や発声について記録できるようにする（1H）						
13	先週の振り返り、記録の提出 [課題（復習）]学んだ内容の復習、他の学生の振り返りも参考に（1H）						
14	音楽活動以外のレクリエーション技術 [課題（復習）]学んだ内容の復習、自分でできる音楽活動以外のレクリエーションについてまとめる（1H）						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	授業のまとめ、レポート課題について 【課題（復習）】学んだ内容の復習、レポートを作成、完成させる（1H）
時間外での学修	自分が担当する活動は自分で責任を持って時間外に準備してください。授業時間は計画や合わせるためのリハーサルに使用します。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	多少の失敗は恐れず、積極的に学ぶ姿勢で対象者に接してください。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週火曜日の13：00～14：30です。

【3W5B217】専攻楽器		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	服部 篤典						
資格・制限等	Wコース必修						
資格等							
実務家教員	オーケストラ25年						
授業方法	個人レッスン 伴奏なし						
到達目標	技能	楽譜に忠実な演奏ができた上で、表現力豊かな演奏ができる					
	関心・意欲・態度	授業時間外での練習を積極的に行うことができる ○					
授業内容	個々の能力に見合った楽曲を選び、その上で譜読みを正確に行い、個々の感性を音楽に表現できるようレッスンを進めます						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	70	-	70
	受講態度等		-	-	-	30	30
	合計(点)		-	-	70	30	100
評価の特記事項							
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	活用なし						
課題に対するフィードバック	レッスンにおいて指摘した箇所が修正されているかを次回レッスンでチェック						
テキスト							
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、楽曲の選び方、練習法、レッスンに臨む姿勢などの説明 「課題」復習・予習：配布プリントを熟読した上で楽曲を調べる(1h)						
2	個人レッスンにて、個々の前期の目標を定め楽曲を決定する 「課題」復習：楽曲候補を絞る(1h) 予習：決めた楽曲の練習(1h)						
3~15	前期に取り組む楽曲を、個々の進捗状況を見極めながらレッスンを進め、問題点を指摘 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習(1h) 予習：楽曲継続練習(1h)						
時間外での学修	レッスン時に指摘を受けた箇所の復習、次回レッスンに向けての予習を行ってください 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：29時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスンで指摘を受けたことに関して不明な点などがある場合は、必ず質問してください オフィスアワー：水曜日5限、木曜日4限 B104研究室						

【3W5S218】専攻楽器		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	服部 篤典					
資格・制限等	Wコース必修					
資格等						
実務家教員	オーケストラ25年					
授業方法	個人レッスン 伴奏有り(実技試験)					
到達目標	技能	楽譜に忠実な演奏ができた上で、表現直豊かな演奏ができる				
	関心・意欲・態度	授業時間外での練習を積極的に行うことができる ○				
授業内容	前期よりレベルアップした楽曲を決め、譜読みを正確に行い、個々の感性を音楽に表現できるようレッスンを進めます					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	-	70	-	70
	受講態度等	-	-	-	30	30
	合計(点)	-	-	70	30	100
評価の特記事項						
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	活用なし					
課題に対するフィードバック	レッスンにおいて指摘された箇所が修正されているかを次回レッスンでチェック					
テキスト						
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	個人レッスンにて後期の目標を定め楽曲を決定する 「課題」予習：楽曲候補を絞る(1h)					
2～15	後期に取り組む楽曲を、個々の進捗状況を見極めながらレッスンを進め、問題点を指摘 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習(1h) 予習：楽曲継続練習(1h)					
時間外での学修	レッスン時に指摘を受けた箇所の復習、次回に向けての予習を行ってください 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：29時間】					
受講学生へのメッセージ	レッスンで指摘を受けたことに関して不明な点などがある場合は、必ず質問してください オフィスアワー：水曜日5限、木曜日4限 B104研究室					